愛國婦人

每月五日二十日發行

一部金參錢　壹ケ月金六錢　半年分參拾六錢　全國無郵送料

廣告料一行六十錢

本號全部[illegible]錢

發行所　東京麴町區（牛ヶ淵公園）　愛國婦人發行所

發行兼印刷人　山澤俊夫

編輯人　大久保高明

社説

養生　二

養生の理窟はそれとして、論より證據の動かざる所を擧げんに、英國のヘンリー、ゼンキンスといふ人は、西暦千五百年に生れ、百七十歳にて物故れり、此人は早起きにて、朝飯前に水を飲み、冷えたる肉と野菜とを食用せりといふ、一々衛生に叶ひたる生活なり、さればこそ斯る長生をしたるなれ。水を飲むのと早起きのことは、既に述べたるも、こゝに注意すべきは、冷き肉と野菜なり。日本人は一體に熱きもの食ひなり、口中の粘膜は、割合熱を感ぜざるが故に、無頓着にて、この茶はぬるしなどゝ、飲み居る其茶の中に、試みに指を入るれば、熱くて入れて居られざるほどなるに、其熱を感ずるの鈍き口腔さへ熱しと感じ、天井を焦がすやうなる煮え飯、煮え茶、熱物を始め、何んでも熱きものを賞味するは、これ衛生の大敵なり。日本人の咽喉の惡るきも一つはその結果かも知れず。西洋人は之に反し、ソップ、コーヒーなどは別として、一體食物は熱きものを取らず、その代りには消毒のために皿を熱して、手に持てぬが如きものを運び來ることなり。食物よりも器を熱くする方、衛生に叶ふと思ふは誤りか。日本人も長生せんと欲せば、熱き飲食物を取ること勿れ、生ぬるくなれるもの若しくは頃合に冷えたる物を取るべし。人は元來肉植、兩食動物なれば、野菜を適當に取ることは、體內を淸め、肉を補うて必要なる養分を與ふるものなれば、忘れても毎日野菜は取るべし。

同じく英國のトーマス、パールといふ人は、千四百八十三年に生れ、千六百三十五年、百五十二歳にて歿せるが、この人は平常極めて簡單質素なる食事をなし、よく勞働し、八十八歳にて初めて結婚し、百二十歳にて再婚し、百五十五歳にて競走して穀物を打ち居たるといふ珍らしき元氣な人なりき。されば餘り珍らしがられて、ロンドンに連れ行かれ、御馳走て、葡萄酒て、持てはやされたるため、健康を損じ、程なく物故れりといふ。死後解剖せるに、尙立派なる身體の組織を有せり。つまり贅澤なるロンドン生活が、死を早めたるにて、哀れ、この人は百五十二歳にて若死したるなり。何にもせずして御馳走を食べ居るほど、身體の毒はなし。質素なる食物にても、よく働きて食べれば、口に驅け込むが如くおいしく、腸胃もよく消化して、身になるものなり。年中何もせずして、夏には海水浴、冬には溫泉と、保養遊山を專門にせる人にて、長生せる例嘗て聞き及ばず、日本にては、人生五十など意氣地のないことをいうて、これからこそ働ける身體を、先づ氣分で弱らし、そろ〳〵隱居の支度に取りかゝり、七十、八十歳となれば、古稀とか何とかいひて人は扇子や掛物に染筆を賴み、本人も得意にて、年をかくこと流行なれど、誠に情なき流行といふべし。願くは、國民一般衛生に注意し、皆長生して、百歳以上てなくては、珍重せず、幅が利かず七八十ては耻しくて扇子や掛物には年が書けぬといふやうにしたきものなり。

されど長生ばかりが、手柄にあらず、長生は働く時間として必要なるなり。何もせずして、風櫃の如く息するのみならば、百歳と雖も、生れだちより死せるなり、これほどの若死あるべからず、安逸贅澤は、單り長生の敵のみならず、又折角の人生を瓦礫とするものなり。質素にしてよく働くほど愉快にして養生となるものなく、又人生を有用ならしむるものなし。これ一擧兩得なり。この外の理窟辯解は、誰が何と言うても、すべて間違なれば、之に惑はされず、質素にして、一心不亂に働くべきなり。

獨逸國ライン河上流に於ける瀑布の小照

愛國婦人會平時の準備

本會顧問　公爵一條基弘

愛國婦人會は彼明治三十三年北清團匪の亂に深く鑑みる處ありて創立せられ、爾後種々なる困難を經て遂に本會の趣旨を貫徹し、事蹟亦貢獻の大なる者漸く多からんとする有樣である。しかし之れ第一期に屬する成効であつて、今後國力の發展と共に亦大々的の設備をなし置くは、即ち第二期以降の成効を全うするの準備に外ならぬ譯である。而して第一期に於ける實蹟の著大なる者は、即ち日露戰役に際し、三十四年創立以來蓄積せる實力を以て、之に應じ婦人團體として相當の活動をなせるは、之れ最も大なる者である。爾來全國の巾幗社會も、愛國婦人會の風を望み、靡然として軍國に於ける日本婦人の覺悟と態度とを發揮して、開國以來未曾有の月桂冠たる最後の勝利を制するに至りたるもの、蓋し之等婦人方の後援慰藉の力與つて大に力ありしと思ふ。

其處で世間では本會の如き婦人團體は戰時に於て必要なる者て、平時に於ては宜しく解散すべきものであるかの如く説をなす者もあるが、之等は大なる謬見であると考へる、殊に愛國婦人會に於ては、其趣旨とする所、先づ第一に遺族癈兵を救護すると云ふ事である、之は戰役時代より寧ろ平時の責任である。即ち戰役により生じたる癈兵遺族を救護慰藉する事は本會ノ趣旨に基く最大なる責務である故に、之に應ずるの準備として、彌々基礎を鞏固になすの要あると同時に、今後一朝國家有事の時に際しては、其急に赴き活動をなし得る丈の平素の準備をなし置くは、極めて緊要の事である、此理由によるも、本會解散説は取るに足らぬ議論である。

要するに、本會は戰後益振作興起現在本會の趣旨を實行するを努むると共に、將來に向つても大々的發展の方法を講じ置て、特に下士卒遺兒の教育又は遺族の授產事業等に就き、懇切なる施設法を講究し置くの必要があると思ふのである。

以上の如く、今後益擴張に留意すべき現下の趨勢なれば、其擴張の手段として（イ）會員の增募を成功する事（ロ）具體的事業の發達を期する事等重なる者なり、即ち會員の增募にありては、全國を通じて會員百萬の團體とするの覺悟を以て多方面の增募勸誘に努め、又授產事業の發達にありては、本會が婦人等の生產事業に着眼して遺族に其職業を與ふるの道を完全にするを目的として、其實行方法等を講究すべきである。

本會の戰後に於ける事業は、今や前述の如く、實に多事多忙の時代と云ふ可きである。會員等は勿論、其他の諸君も深く此意を諒せられて、直接又間接に、本會が平素に於ける準備に贊同援助あらん事を、切望して已まざる次第である。

廣告

子爵小笠原長生立案　佐藤正校閲　愛國婦人會編纂

奥村五百子詳傳　全一冊

本會の主唱者奥村五百子女史の傳記は明治昭代に於ける日本婦人の活動的歷史たると同時に一面は愛國婦人會發達の歷史なり今や本會之が編輯の任に當り材料撰擇中につき不日出版の筈なり

尙本書よりして得たる利益は擧げて奥村女史紀念碑建設の費用に供すべし

發行並に賣捌所　愛國婦人發行所

◎本號には附錄として贈正四位野村望東尼の肖像及遺物を添附す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

愛國婦人會に就て

内務大臣　原　敬

愛國婦人と云ふ雜誌に登載する爲に、簡單にても何か意見を述べよとの御依頼であるが、何分突然の事にて、述ぶべき意見を有せざるは甚だ遺憾な次第である。尤も今日差支ならば他日又來訪せらるとのことなるが。再び來訪ありても、多忙の身なれば御依頼に應じ得ざるかと思ふ。

依て種々考へても見たが、何分是れといふ思ひ付がない、唯不圖考に浮びたるは愛國婦人會のことである。愛國婦人會は設立以來おひ／＼盛大に趣かるゝ由にて、誠に慶賀すべき次第であるが、尚ほ各地方の中には、充分ならざる處もありとのことにて、地方官に勸誘方を依頼して呉よとの御依頼を受け、昨年地方官會議の折に一應其談話を試みましたが。近來も色々の有益なる計畫が多く、地方官も一人にて多き者は、三十以上の會頭又は支部長などを兼ね居る樣な譯で、御趣意は至極贊成だが、誠に困難の事情もあると云ふ意見を述ぶる人もあつたので。吾輩も多少其實情を知らぬにあらぬが故に、尤なりと認めたには相違ないが、去りながら吾々は悉く此種の有益なる計畫に盡力するの出來ぬと同時に、又悉く此有益なる計畫を排斥するの出來ぬのも勿論の次第である。其所で吾輩は、有益なる事業には悉く盡力せよとは無理な注文であるが、其內に是非とも諸君の盡力を要する者があるといつた、其一ツは即ち愛國婦人會である。

愛國婦人會は戰役中は勿論のこと、今後とてもます／＼盛大にして其設立の目的を達せらるゝ樣にありたきとは、今更申すにも及ばんことである、去りながら、如何に有益なることにても、他人を強ひて其有益なる計畫に贊同せしむる譯には往かぬもので、所謂道德の拷問に陷るが如きことは避けねばならぬのである、故に世人をして愛國婦人會の目的を充分に了解せしめ、又既往に於ける實蹟に充分の信用を置かしめて以て、始めて此會の隆盛が期し得らるゝのである。如斯ことは事新しく申すまでもなきことであるが、偶御依頼を受け、咄嗟に考案も付かぬにより、敢て一言して以て其責を防がんと決するに過ぎぬ、他日又相當の時機に於て若し述ぶべき意見あらば之れを述ぶることに致したい。

時勢と婦人　上

淇亭女史

凡そ何れの世にも、とき／＼或方面に、種々なる大人物の出づるは今古東西を通じて同じことであるが、總ての道の泰斗なるものは極く稀によりしか出ないものである。さうして其人は啻千載の下のみならず、數萬年の後まで畏服尊敬するに足るべき、普通の人と異つた精神、或は事蹟があるに相違ないのである。けれども時勢の潮流には、その時勢の色その時勢の臭味を避けることが出來ないから前の世に於ては、神や佛と尊宗された聖人君子でも、人智の理窟的に秩序立つて發達した後の世からは、兎角の品評を受くるのは蓋し免れ難いことである。されば今の文明社會に於て、此事は立派だ完全だと、他も我も思ひつゝあることも、數千年後の子孫は又色々に之を品騰するで有らう。聖賢の間に於てすらさうであるから、況や其他の人に至ては、毎に一方より非難を受くるのは、普通のことゝ思はねばならぬ。今古より青史の上に其名を止めた處の最も名高き婦人の一人に就て云つて見れば、彼の紫式部の如きは即ち世に稀なる優れた婦人で、實に才德兼備であつた、其著書源氏物語に就ては、いろ／＼の非難も少なくないけれども是れは非難する方が無理である、何故なれば紫式部は一條天皇の御代の潮流に孕まれて生れた人であるから、何うしても其臭味を免がるゝことは出來ないのみならず、勿論後世の訓へにしやうと云ふ心で書いたのでもないから、之を攝くものは、初より其心でなければならないのである、而して紫式部が稀世の賢婦人であつたとは一條天皇の御代の人が皆其潮流に游泳して得意がつて居る中に、獨り式部が立派な思想を筆に止めて置いたのを見ても、其非凡の才を推して知ることが出來る、そこで一條天皇の御代は何う云ふ御代であつたかと云ふに、榮花物語其他に現はれて居る通り、朝廷及び貴族の花盛であつて、芽出たい結構な御代、其頃の貴族は實に幸福なものであつた、けれどもモウ其時已に花は開き切つて稍うつろふ色を見はし初めて、遠陬には戰爭が始まり、都では非常に輕蔑して居る處の田舍武士が存外に實力を貯へて、將に雄飛を試みやうとしつゝある世の中であつた。それから一體の風儀の上は何う云ふ風であつたかと云ふに、女子に非常に權力があつた、是れは多く政略から來て居る、と云ふのは無論君主專制の御代で、殊に我國は皇統一系の君を戴いて居るのであるから、其君主には非常な大權があらせられる。それ故に政治の舞臺に立つて、敏腕を振ひ權力を盤斷しやうとするには、先づ第一に君を擁して立たなければ都合が惡るい、それには我女を皇后に立て、孫が一天萬乘の君と仰がるゝ秋が一番都合が宜いので、殆ど皇后は藤原氏の出と定められたかの如くになつて來た、さうして藤原氏は外戚の威を以て、政權を專らにして居つたけれども、世の中はさう長く獨舞臺は續かないもので、遂に同族の間に同じやうな貧格、同じやうな權勢を掌握するものが漸々多くなつて、皇后の冊立の如きも、必ず藤原氏の宗家よりする譯にも往かず、互に競爭するやうになつた、其結果他よりも立ち優れて、容貌も美しく、性質も賢しく、學力技術も充分備つて居るものを造り、其選に當らしむることゝなつた爲めに、此時代には、男子よりも寧ろ女子の敎育の方に熱中した、さうして后宮たるべき女子を完全たらしむる手段方法を講じたる結果は、遂に后宮に使用する女官を選ぶことになり、女官を實ならしむるには、先づ中流女子の敎育を第一にせねばならぬと云ふので、此時代の中流及び上流の女子敎育は非常に盛であり、從て又女子は非常に崇ばれた、併ながらもと／＼人物のある處に實權を歸せしめやうとする政略上から出でたることであるから、立派に出來上がつた女子の、德操を論ずることが、今日の如く男女の間に懸隔が無かつた、德の高く品行の方正なる人は、男女を問はず等しく稱贊を博したが、それと同時に德操の甚だ紊れて居ると云ふ非難が女子に對しては強く、男子に對しては緩いと云ふやうな差別がなかつた、其れが爲に、女子の德操が、武家時代に於けるが如く、嚴格には往かなかつた、それのみならず、貴族の權勢は、殆ど此世を我物にして、下流の懸隔が甚だしく、下流の人は、如何なる點より見ても共に齒せられなかつたから、遊君とか或はそれよりも少しく品の高い遊女とかにしても、上流の男子は、是等の者に對して、殆ど一顧をも與へなかつた、假に之を顧みても、それは甚だ恥づべき所業として深く秘して居つた、それ故に上流の青年公子は、何う云ふ遊の花に醉ひ、月に浮かれたかと云ふに、貴婦人との交際を以て無上の娯樂として居つた、其點は餘程今の歐羅巴風に似て居て、從て此頃の流行風俗は凡て貴婦人から造り出されて居る。さうして兩者の交際は形の上から云へば、簾の中に在り、几帳を垂れて隔てゝ居つたが、實際は決して簾の外、几帳の內に止まつて居らなかつたので、女官は殆ど交際場裏の花と目されて居つた、それ故に彼の時代には、紫式部を始め赤染、和泉、式子、清少納言、小式部內侍等の交際家が陸續として出たのであるが、それと同時に、品行の點はなか／＼當にならないものになつた、矢張今日文明諸國の交際社會の裏面には同じやうな風が見える、何うしても女子をして交際場裏の花と咲かしめんとするには、餘程深く注意しないと、日本の武家時代の如き潔い正しい操行を望むことは餘程困難になつて來はしないかと疑はれる、即ち一條天皇の御代の有樣は斯う云ふ風であつたから、此頃の男子は、貴婦人達の中に評判が惡かつたが、此世の中に最早望みも樂みもなくなつて、青雲の途も杜絶する有樣であつたので、男子が女子の御機嫌を取ることはなか／＼盛なものであつた。

● 電話增設に就いて

從來本會の電話は番町五百二十番のみの處此度更に番町千七百四十五番を增設し愛國婦人會東京支部と當發行所との共用に致し候間御用の諸氏は成るべく右新設の番號を呼び下されたし

愛國婦人會東京支部
愛國婦人發行所

大暑のをりから愛讀者諸君の御清福を祈り候各地より懇篤なる暑中見舞狀を賜はり感謝の至りに候多數の事につき一々返禮に及びかね候まゝ玆に略儀ながら謝辭申述候かしこ

愛國婦人發行所

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

滿洲旅行（貴婦人方に望む）

南滿鐵道會社理事
元秋田支部顧問　清野長太郎

滿韓の方面は內地よりの旅行場所としては最好の地である、今や酷暑に際し休暇を利用し學生商業者諸官衙會社員等の人々の來遊の場所としては絶好の地である、尤も韓國は時局に際するありて、普通の遊歴は時を得ない故に、本年の如きは滿洲鐵道を利用して、彼地に行かるゝ內地人の切に多からんことを望む譯である、就中愛國婦人會の貴婦人方を始めとして、其他の婦人方も、今後は內地に於て避暑地を求めらるゝよりは、段々と滿韓地方へ足を向けらるゝ樣に切望する譯であります。そうして一ツには彼地に旅行なされた結果、其見聞を社會に紹介する點に於て、國家に貢獻さるゝは勿論、二ツには家庭に於ても、尠からぬ興味を作らるゝ譯て、子女教養上にも至大なる影響を及ぼすことゝ信じて疑はぬのであります。殊に第一御自身の心身保養上に强大なる刺戟を與へ自然健全なる精神と體力とを兼有せしむるの端緒ともなり、强國の婦人たるに、愧ぢざるに至るべしと確信するのであります。

さて今後に於ける滿韓地方は、どうであるかと云ふに、有力なる人物の種々の方面より益々移住し來りて大いに實業を以て健鬪せんとするのである。此時に際し、大和民族の大發展を期せんとするのは、是れ東洋の大勢にして必然の趨向なれば、之が後援たり又補助者たる主婦の職としては此事に充分の興味と實地の知識とを養うておくのは決して贅事ではないと信ずる。故に婦人方に於ても地位あり有力なる貴婦人方の旅行ありし場合には特に其土產話として、彼地に於ける事物や人情風俗等凡て實見せられたる事柄を、社會に紹介せられたならば極めて有益なる反響を現實することゝなるであらう。況や滿洲の戰場を弔ひ、或は旅順に、或は二〇三高地に、或は遼陽等に、皆吾忠勇なる戰士の奮鬪した地に至ッたならば偉大なる刺激を得るは勿論其大陸的風物に觸るゝの結果は、相俟て身心の元氣を鍛錬し得らるべく、更に歸りて其感想を子女に傳へしならば如何、蓋し得る處多からんと思ふ啻に得る處多きのみにあらず、心神の修養を全うする點に於て、無限の壯快を覺ゆるの概があろう、之れを內地の須磨明石に於て悠々避暑して、單に徒食すると云ふに比すれば、實に得る處霄壤の差あらんかと思ふのである

近頃淺野總一郎氏の夫人は良人と共に來遊せられ、充分の視察を遂げられた樣ですから實地視察談を聞取られたらば、裨益する處あらうと考へる。

◉三井淺野兩夫人の海外旅行

△三井夫人の旅行狀況（日記に依る）

三井すて子氏は令孃多都雄氏平野はま子氏及び良人三井三郎助氏外十數名と共に六月十五日敦賀港を拔錨海路は稀有の靜穩なりしも船足遲く十七日午後十時漸くアスコルド沖に假泊し十八日早朝浦鹽港に着し同夜七時長程の汽車に搭じたり。列車によりては浴室あり一回浴料一留半、手荷物は一二等共五十封度迄は無賃なれど之を超過すれば極て高き運賃を課せらる、海外旅行劵は露國旅行に於て最も必要を感じ外務省交附の儘にては其効なく必ず日本駐在露國領事の裏書を要す、此旅行劵は先づ浦鹽行の露國汽船中にて船長に渡し上陸前再び之を請取るものにて汽車中は別段の事なきも宿泊の際は一々嚴重なる點檢を受くるものとす、一行は東亞汽船會社敦賀代理店の手を經て浦鹽の鐵道會社と豫じめ申し込みたれば寢臺車故障なく手に入りたるも代理店によりては浦鹽の鐵道會社と連絡不充分の爲め動もすれば浦鹽着後空室なく非常に迷惑するとあり現に近頃一等車の前拂ひしながら二等車に入れられ辛うじて乘りそくないを免かれたる旅行家ありと云ふ旅行者は注意すべし、汽車は莫斯科に向け一週三度の發車にて一行の乘りし火曜日發の外に木曜日と日曜日に出づる露政府列車あり何れも同時に莫斯科つ達すと云ふ（中略）。二十三日前八時イルクーツクにて乘換へたる列車は浴室の設備あり本邦人に取り殊更に喜ばし浦鹽以來の垢塵を一洗す、二十四日エニセイ本流を渡りクラスノヤルスクに着す（中略）。二十七日朝チエリヤビシスク着、イルクーツクより二千英里、歐亞の境に遠からざる停車場にて西伯利亞鐵道の終點たり、露國のスウキツルランドと稱せらるゝウラル山に入る、山水明媚自ら心神を新にするものあり、廿八日午前サマーラに着し、午後アレキサンダー橋を渡る、ヴヲルガ河の本流に架するものにて長さ約十二町半、過ぐるに五分二十五秒を要す、二十九日豫定通り午後莫斯科に着し荷仕舞に忙はし、六月十六日午後十時東京新橋を發してより約十五日目にて露の舊都に入る。（下略）

△淺野夫人旅行の狀況（令夫人の談）

私は良人總一郎に隨ひまして妹の馬場つる子及男泰二郎外數名と滿韓地方に旅行を企てました別段大した身支度なぞは致しませんで大磯か須磨明石へでも旅行する位の考で髮は平常結ひなれた髷丸に結ひ衣類は平常着で履物は下駄と云ふ姿で其外藥品と僅かの化粧用の油とか元結とか云ふ物を準備した外改めて滿韓旅行だからと云ふて別段の用意を致しませんで極めて無造作に身支度をしました全體婦人が良人と同伴して長途の旅行をするときは其支度に煩を加へ、まづ頭の上から足の先まで殘り落なく十分の準備を爲ますから從て出這入りに手が掛りますからそうなると長い道中には良人の足手纒となるの例が世間に幾何もあります從つて良人も夫人の同伴を好かぬやうになる譯で御座ひますから私も此例にされない樣に良人の足手纒とならぬ樣極めて簡單に準備をしまして若も之ても置去りに逢へば其時は自分の足で勝手の處へ見物して歸京する決心をしまして五月十五日東京を出發し門司に一泊十八日の晩門司を發しました海路は多少荒れましたけれども平穩の方でありましたろう十九日朝朝鮮釜山に上陸しまして翌廿日鐵道の厚意で仕立て呉れました特別列車で京城に到着一週間滯在しまして夫れから平壤を經て清國安東縣へ參りました朝鮮では別段之と云ふ感想もなく又內地と格別變つた樣の不便も感じませんでした六月一日安東縣を發しまして草河口に一泊しました此線路は安奉線と稱しまして夜間は馬賊の危險ある爲め運轉しませんそうです其所で草河口を翌三日朝出發して奉天に着しました六月十六日奉天を發し營口へ着二泊し直に大連へ參りました夫れから旅順へ廻り彼の有名なる二百三高地を見物すべく馬車にて麓まで參りました處が丁度前後から强風雨にてなか〳〵婦人なぞの登山は思ひも寄らぬ有樣でしたけれども折角爰迄來て吾國戰士の最紀念地たる此山を見ずに歸つたとありてはなんだか氣が濟ぬ樣に思はれましたから同伴者を勵まし私は下駄のまゝ傘を窄めて登山はしましたが衣類はビショ濡れ殊に麓は粘土で其上に石灰石を碎いて布てあるのですから歩行も思ふ樣にはなりません其難澁なるとは爰で御話しする樣な譯でありませんでした漸て頂上に達しましたが風力は益々加はりて丁度老鐵山の方から二百三高地の背御にある赤坂山に向け吹き付け來る其風力の凄じさ申したら夫れは容易でなく直立して居りますと忽ち吹き飛ばされて仕舞ふかと思はれました暫時にして下山し歸連して夫れから船で六月十五日に歸京しました前後三十一日間の旅行でありました此度の旅行中種々の感想が起らぬでもありませんでしたが今日になり格別之とり出して申上げる程の事もありませんが唯私が極めて簡單の仕度で斯く長途の旅行を容易く濟して來たことの實驗は偶々外の御婦人方の大陸旅行を間接に御勸誘すると云ふになる次第かと思ひます夫れに妹と云ふ連がありましたから髷なぞは御互に結ひ合ましたから段別髮の不便もありませんでしたが唯尾陋の御話ではありますが婦人用の便所のないのが何より一番の不便でありました

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東西名婦傳

傳通夫人

贈從一位傳通夫人は、德川家康公の生母にして、實の名を大といひ、三河國刈屋尾張國小河の兩城を兼有し、五萬石の地を領せる、水野右衞門大夫忠政の娘なり。天文十年德川廣忠に嫁し、翌年十二月廿六日家康公を生み給へり。當時德川家は三河國岡崎城に在りしが、駿河には今川義元あり、尾張には織田信秀（信長公の父）あり、東西の强國に挾まれ、勢ひ微弱にして獨立するを得ず、水野家と共に今川氏に屬してありしが、其後水野忠政は卒し、嫡子信元家を繼ぐに至り、今川氏と不和を生じ、やがて織田氏に屬してけり。是に於て德川廣忠は水野信元の反覆を憤り、心を決して其夫人を離別し、水野家に送り返したり。時に天文十四年の秋にて、夫人が德川家に嫁し給ひてより僅に滿四年に過ぎざりき。扨も夫人は兄信元の許に歸りてありしが、其頃尾張國知多郡阿古居の城主久松俊勝が、男子一人まうけて妻を失ひしかば、夫人は迎へられて再び久松家に嫁し給ひぬ。其後男子三人女子四人をまうけける。男子を康元、康俊、定勝といひ、女子は松平忠正、松平康長、松平家清に嫁し、季の一人は夭折せり。永祿三年五月家康公阿古居なる久松家の館に到りけるに、三男子は双親に侍座せり。家康公曰く我は兄弟ともあらざれば、此三人を誠の弟と意ふなりと、依て族姓松平をなのらせたり。後夫人は慶長七年八月廿九日を以て伏見に薨ぜり、時に年七十五、法名を傳通院蓉譽光岳智香といふ、江戸小石川なる宗慶寺に葬られしが、更に其寺をも改稱して傳通院と號せり。

德川家が夫人を離別するに當り、夫人は駕に乘り、數人の從者等に送られて、岡崎城を出て、やがて刈屋城にやゝ近づきける折しも、夫人は駕の中より從者に聲をかけ、わらはが兄信元は執念き人なれば、御身等が其儘わらはを送りて刈屋城に到らんはいと危きことに思ふなり。唯駕夫のみ殘して、御身等は此處より直に歸城せよと曰はれぬ。されども從者等は主命なれば是非刈屋城まで御送り屆け申さんと爭ひしか、夫人は斷乎として歸らしめ給ひたり。從者等は力なく暇を告げて歸途につきつゝ、顧みれば、駕の刈屋城間近くなりし時、果して伏兵起りて駕を取り卷きたり、されども身分なき駕夫を殺したりとて益なければ、事は其儘に止みたりとぞ、夫人が機を察するの明、さすがに偉人の母なりと謂ふべし。

傳通夫人の畫像原本は子爵水野忠宣氏の所藏なり明治戊辰結城兵亂の際に一旦紛失せしが後年に至り領地の一民家に在りしを發見し再び子爵家に復せり小石川なる傳通院に安置せる木像と殆んど同一の姿なり唯筆者の不詳なるをうらむ

家康公幼年にして駿河の今川氏に行きて人質となるべき餘儀なき事の起りけり。時に公の繼母の實家なる戸田憲光は、來りて事を指圖し、此頃しも街道は河々出水して不便なれば、海路を取るに若かずとて、三河の港を船出してけり。然るに憲光は織田氏に意を通じてありければ、洋中にて船の方向を轉じ、船を尾張に着けしめ、家康公を織田氏の手に渡してけり、織田氏は大に喜び、德川家に使を立てゝ味方せんことを迫れり、さるに德川家にては一子の生死は意に介せずとて織田氏の脅迫に應ぜざりき。織田氏怒りて家康公を一寺に幽し、殘忍なる待遇に出でければ、公は幼年の身に具に辛酸を嘗め給ひぬ。夫人は此時既に久松家に再嫁してありけるが、此事を傳へ聞きて憂悶おく能はず、幸に彼の寺は久松家の館なる阿古居に程近かゝりければ、侍臣に命じて密に衣食をおくり飢寒を免れしめ給ひきといふ。

臺所算術

とこなつ

臺所にて日用品の買入れなど致しますに、一寸とした計算を要するが常にございますが、其度々算盤や鉛筆を持出さずとも大抵は胸算用で間違なく出來る仕方がございます、私は此仕方を友人から敎はりまして、日々使用して見ますが、大層便利でございますから、誌上を拜借して未だ知り給はぬ世間の方に御知らせ致したいと存じます。殊に下女に敎へて置きますと大層便利でございます。其仕方を區別して見ますと、左の五種となるかと思ひます。

第一例　二錢九厘の玉子七つの代價何程。

之を正式に致すには誰も承知の通り二錢七厘に七を乘けるのでございますが、今少し輕便に致すのが此の臺所算術の仕方でございます。其仕方は二錢九厘を假りに三錢と見まして之に七をかけて三七、二十一錢とします、それより一厘づゝ七厘の不足を減きまして二十錢三厘といふ答を得るのであります。此第一例の仕方は九とか八とか十に近い數の時は十と假定して其高を得其中より不足を減くのであります。

第二例　二錢二厘の桃八つの價何程。

是は二錢二厘を假りに二錢と見まして二八、十六錢を得、それに二厘づゝの餘分八つ即ち一錢六厘を加へ十七錢六厘といふ答を得るのであります。

此の第二例は一とか二とか少しの餘分即ち端數は其端數を退けて置いて高を出し、其高に端數を加へるのであります。

第三例　一錢五厘の葉書十三枚の價何程。

是は一錢五厘を倍にして三錢とし、其三を十三に乘け三十九錢を得、之を半分にして十九錢五厘を得ます是が答であります。

十五とか廿五とか卅五とか五の付いた數は之を倍にすると三十、五十、七十といふ計算に便利な數となるから其價を倍にして、個數にかけて高を得るとは容易である、而して其高を半分にすれば答となるのである。

第四例　一錢七厘の瓜九つにて代價何程。

是は箇數の方の九つを假りに十として十の價十七錢を得、其中より一つの價一錢七厘を減き十五錢三厘といふ答を得る。

此例にては個數が九つとか八つとか一に近い時は十と假定して其高を得る時は唯位を一つ進めるだけで、即ち一錢七厘のものを十七錢にするだけてあるから造作もない、其中から一つなり二つなりの價を減いて答を得る仕方である。

第五例　六厘の菓子三十五個の價何程

是は三十五個を倍にして七十個とし之に六をかけ六七、四十二錢を得、其半分即二十一錢が答である。此例にては箇數の方が五の數を有し居る故に之を倍にすると計算し易き數となる、之に其價を乘けて二分すれば簡便に答が得られるのである。

練習問題

(1) 一升十九錢の白米四斗の價何程。
答七圓六十錢。解　十九錢を二十錢と假定し、四斗にかけて二四、八圓を得、其中より一錢の不足四十、即ち四十錢を減いて七圓六十錢を得る。

(2) 一帖二錢九厘の半紙八帖の價何程。
答二十一錢二厘。解　二錢九厘を三錢と假定し、三八、二十四錢より八厘を減じて得る。

(3) 一俵三十八錢の炭六俵の價何程。
答二圓二十八錢。解　三十八錢を四十錢と假定し四六、二圓四十錢、其中より十二錢を減きて得る。

(4) 三錢一厘の玉子六つの價何程。
答十八錢六厘、解　三錢一厘を三錢と假定し三六、十八錢を得、其れに六厘を加へて答とする。

(5) 五錢二厘の林檎八つの價何程。
答四十一錢六厘。解　五八、四十錢に二八、一錢六厘を加へて答とする。

(6) 三十五錢の鰻飯七人前の價何程。
答二圓四十五錢。解　三十五錢を倍にし七七、四圓九十錢を得、其れを半分にして答を得る。

(7) 四十五錢切のメリンス八尺の價何程。
答三圓六十錢。解　四十五錢を倍にして八九、七圓二十錢を得、其半分を答とす。

(8) 一合五錢五厘の牛乳を毎日一合づゝ三十日間用ゐたり何程拂ふべきか。
答一圓六十五錢。解　五錢五厘を倍にして拾一錢とし、三をかけて三圓三十錢、其半分を答とする。

(9) 一つ七厘の茄子十九の價何程。
答十一錢三厘。解　十九を二十と假定して二七、十四錢を得、其中より七厘を減いて十三錢三厘といふ答を得る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

輕井澤

幸田露伴

夜露の名殘猶しつとりとして、塵無き庭の松も檞も涼しきに、梧桐の梢渡る風は見る眼にさへ心よかりし彼の朝、薄色のリボンを清らなる髮の唯一つの飾として脂粉を假らぬ潔き粧ひは今時の若き女に珍らしく、凜としたる目つき、引緊りたる口つき、流石に皇國の爲旅順の惡戰に身を挺んでゝ死したる南少佐の遺女として羞かしからぬ活潑としたる風采をあらはしつゝ、それでは伯父樣行つてまゐります、彼地へ着きますれば直樣御知らせ申しますし、また一週間の後には必ず歸つてまゐりまする、と暇を告げて、些短目の袴に靴の打扮、蝙蝠傘一本、着替手道具入りの旅鞄一個、勢ひ如何にも好く勇み進んで三造（抱へ車夫の名）の車に打乘り、上野停車場へと急がせし狀態は、まだ日數經ねば物忘れ爲易き老の腕にもまざ〳〵と遺りて、曉天夙かりし其の折の車輪の音、街路の並木の柳に見え隱れし行ける初子の背影、耳にも目にも未だ消えぬやうなるに、僅に一週間を輕井澤に過して來て、昨日歸つてからの素振の疑はしさ、平素にも似ず不樂しげの顏して、言數きかず物思はしげなる態は、何樣ても何事か蹊蹺無くては叶はず、彼女に限りては當世に有りふれたる菫々菜に惱み星に憧るゝやうなる愚なる思になど耽ることも有るまじくは思はるれども、年齡は年齡なり、油斷はならぬ時世の勢力、若しもの事ありては亡き舍弟に代りて婦女一人前になるまでを瑕瑾無く生し立てんと誓へる心願も空になりて、苔の下より云甲斐無しと恨みられんも口惜し、兎角は其と無く口占を引いて糺さんには如かじと、世に老いて額に浪の數を疊める老翁の心の智慧の海淺からず、廻り縁の端居に蒲莚の清きを敷きて、朝鮮團扇の風に白き鬚髯を戰がせながら、招ばせたる初子の今や來ると待てば、やがて婢と共につゝしまやかに此室に入來りぬ。暑かりし日も稍西へ廻りて、檐馬の聲おもむろに夕の涼さを惹き出さんとする頃なり。伯父樣何か御用でございますか、と危座まるを、いゝえナニ、用でも何でも無いが、湯冷しを十分に冷させたからライムジユースでもあげやうと思つて、：：ナント餘り暑いては無いか、能くマア室に籠つて御在だネ、何を其樣に勉強して居るのかエ、些輕井澤の涼しい話でも聞かせて貰ひたいものだが、と云ひながら面上を覗ふに何と無く曇りを帶び居て、正しく晴やかなり曩日の面影は無し。ハイ、左樣でございましたか、有り難うございます、輕井澤も何樣も別に面白い事もございませんで、と云ふ間に婢は冷しきつたる湯冷水、ライムジユースなど持來りて、やがて程好く調へつ、其の玻璃盃を侑むれば、涼しき其の味を賞して翁も初子も少時の溫熱を忘れしが、初子はライム汁の罎の貼紙に眼を注めて歐字のあらましを一寸讀むと其儘、何をか思ひ出し、俄に今復面の色を惡くしたり。オヤ、厭な顏を御爲だが、此藥物の液は汝は嫌だつたかえ、と透かさず問へば、イエ、嫌ではございません、結構だと思ひます、といふ。ではまた何で今のやうな顏を御爲なのと追ひ掛けて問へば、問はれて困つたといふやうな顏を仕つ、厭に思つたやうな顏でも致しましたのと反つて問ふ。然樣さ、何だか嫌しくは無いやうな顏をお仕だつたネ、と逼む。マア伯父樣には然樣見えたのでございますか、偶然貼紙を見ましたら全く船來だつたものですから、ツイ何だか厭に思ひまして、と思はず知らず口走る。ハテネ、汝は船來の物を嫌ふといふやうな其樣な開けない方では無かつたが、——隨分船來の物は好て、語學も精を御出して、それて西洋人の御朋友も出來て、先生と一緒に輕井澤なんぞへも御出だつたのぢや無いか、と詰れば、イヽエ、船來の物が嫌ひだといふのではございません、船來の物だつたので悲しいやうな氣が致したのでございます、と云ふ。ます〳〵其の因由の分らねば此にこそ蹊蹺はあれと伯父は付け入りて、一體それは何樣いふ譯なのかえ、少しも私には解らんが、何故また貼紙を見て船來の物だつたので悲しいやうな氣が仕たのです、と眞面目になりて念入りに問へば、問はれて今は答へぬ譯に行かず、それでは伯父樣最初から御話を致しますが、アノ斯樣いふ事が有つたのでございます、知つて居らつしやる通り、這般教師のチヤツタルトン樣に連れて行つて頂いて、輕井澤で外國の若い方——丁度妾なぞと同じ年頃の孃さん達と一緒になつて遊んで居つたのでございますよ。日本人は妾ばかりでしたが、それやあ皆さんが快活なので、ほんとに面白かつたのですよ、米國の若い方が三人、英國の方が一人、獨逸の娘さんが一人、それに先生と奧樣と、御兒さんが三人。それで立派ではないのですが愉快に出來て居る家屋が借りてあつて、御料理なんぞは皆で代りあつたり手傳つたりして拵へるのですから、賑やかで左樣して面白く暮して居たのです。先生御夫婦はあゝいふ方ですし、何の方も何の方も悉皆爽快した善い方なので、些も外國の方と一緒に居るやうな氣も致しませんでしたが、たゞ獨逸の娘さんが一寸性癖のある方で、時々人の氣に觸る事を御云ひでしたが、それでも何事も無く濟んで居りましたところ、參つてから五日目の日でした、悉皆で霧積の山へ行つて一日暮して遊んで來やうといふ先生の御發議なのでした。そこで誰も彼も悅びまして、御辨當の準備を爲たりなんどして、銘々思ひ寄りの罐詰やなどを備男に負はせて山へ參つたのです。溪川は奇麗ですし、山徑も左樣苦ては有りませんし、景色が種種に變りますので、大悅びで、御晝餐といふ事になりました。備男に聞きましたら、アクダヲとか云つて木鉢なんぞになる樹ださうです、其の大きな樹の樹葉に似た偉大な葉の茂つた陰に在つた平つたい大きな石の上に坐つて、溪の流れの琴瑟と音を立てゝ涼しく迸つて行く傍で御辨當を使ふのです。備夫は少し離れた岩の陰で枯木を焚いて御湯を沸しますと、奇麗な白い煙が靑葉の梢の間に昇つて行つて、名の知れない禽が高い處で鳴いたりなんどします。まるで畫のやうな景色だつたのです。て、御午餐はいろ〳〵の罐詰を開いたのですが、知つて居らつしやる通り、罐詰はリツピーだの、クロツス、エンド、ブラツクウエルだの、英吉利の鰊だの、佛蘭西の鰯だの、どれも外國のは善く出來て居ります。すると日本の牛のやまと煮の罐詰——妾が持たせて來たのでは有りませんが交つて有つたので、亞米利加の娘さんが珍らしがつてそれを開けたのです。ところが色は眞黑なり、醬油の香は強いなり、誰も外國の人は食べ得ません。それでも罐を開いた娘は好奇心半分、妾への愛想半分で、食べず嫌ひは惡い事です、日本の罐詰も味つて見ましやうと云つて、怖る〳〵食べにかゝつたのですが、習慣が違ひますから食べかねたのです。すると、例の獨逸の娘さんが妙に笑ひながら、およしなさい〳〵、と止めまして、そして日本の事を惡口を申しました。伯父樣、其の娘が何と云つたと御思ひです。其の惡口を聞いてから妾は胸が閉塞つて口惜くて〳〵仕方が無いのです。と云ひ掛けて旣眼に淚を含みつ、伯父樣斯云つたのでございます。其の罐詰は何の肉だか知れません牛なら牛の肉だと證據立てる色を見せたら宜さゝうなものを。其の罐詰はまた腐つて居るか何樣か知れません、腐つて居ないなら腐つて居ないと證據立てる香氣を有たせたら宜さゝうなものを。そしてまた日本の罐詰は一ぱい詰つて居ませぬ製造者はいつでも半分は空氣を詰へ詰めて賣るのです。妾の考へるには日本人は武器を使ふ事が上手で牛を殺す事は知つて居るのですが、肉の罐詰を製へて食卓の幸福を增さん事はまだ知らんのでしやう、ハヽヽ、ハヽヽ、と遠慮なしに笑つたのです。妾は口惜かつたのですが默つて居りますと、先生が閉口かつたと見えて今日出來無い事は明日出來るやうになります、と云つて下すつたのです。伯父樣戰爭ばかり強くつて他の事が拙ければ、牛を殺す事ばかり上手だと云はれても仕方が無いと思ふと、眞實に口惜くて〳〵好い心持は致しません。此の結構な味のライムジユースを見るにつけて、一層其の事を思ひ出して悲しいやうな氣が爲まして、と云ひさして星眸凝るが如くに物を見るとも無く定まり、傚しき心の深き思をば寄せん方無さに悶え惱めば、伯父は却つて此談に心安堵きてや、世馴れたる人の詞いと輕く、宜いは、今日出來ない事は明日出來るやうになる、ハヽヽ、ハヽヽ、と打笑ふ時、颯然として庭樹皆戰ぎ、夕風ばッと忽地到りて暮れんとする一室に涼氣滿ち溢れたり。（終）

つみ木

佐々木雪子

幼き子の大人しく遊へるに、みれば、おもちやの籠よりつみ木とり出して、熱心に何をかつくりをり。やゝ出來あがらむとせしに、くづして、又つみはじめぬ。幾度かつみてはくづし、又つみてはくづす。はかなきすさびよと見る〳〵、思へば、我らが日々のしわざ、一生のしわざも、これに似たらずやと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

避暑御旅行用品

●婦人携帶化粧箱　一箱九圓
婦人の化粧品一切を納めたる高尙優美なる箱入、便利はいふまでもなし。

●男女兩用化粧箱　一個三圓以上十圓
Dressing Case が旅行に役立つ事一度之を試みられたる御方の知り給ふ所なり。石鹸、齒磨、鏡、櫛、香水其他を納む、代價によりて數の多少あり。

●携帶食器　一個(甲)一圓六十錢　(乙)二圓四十五錢　(丙)二圓八十五錢　(丁)四圓八十錢
(甲)革製のサックにナイフ、ホーク、匙を納めたり。(乙)は之に增すに箸を以てす。(丙)は革製サックにコップ、ナイフ、ホーク、及箸、匙等を納め、(丁)のサックは籐製の優美を極めたるものなり。

●海水浴帽子　一個一圓前後
ゴム製の帽子にして、婦人が海水浴に頭髮を損せざる爲めに用ゆ。

●ゴム製垢すり　一個(小)六十錢　(中)九十錢　(大)一圓十錢

●空氣枕　白ゴム製一個(大)二圓八十錢　(中)二圓五十錢更紗ゴム製一個(大)二圓三十錢　(中)一圓九十錢

最も高評なる石鹸と香水

▲米國スキフト石鹸　一箱(三個入)　五十錢
其價の低廉なると想像の外なり、これ三越が犧牲的提供による。香はロース、スミレ、カーネーションなど

▲佛國キセロル石鹸　一個　五十八錢
キセロルの名は佛國に高し、其殺菌劑を含ませたる本品は衞生上無二の必要品。

▲佛國ピノー香水　一瓶(大)　三圓五十錢
ピノー會社のボスカリナ香水は斯界に於ける第一位の品として、已に〱我國交際社會の喝采を博し居れり

▲佛國ロジヤガーレー香水　一瓶(大)　四圓五十錢
これ亦御馴染のロ會社の製なり。其アレバロースの名は夙に我國人の知る所、其價亦低廉

▲英國アッキンソン香水　一瓶(中)　一圓八十五錢
英國隨一の香水製造所中第一位なる同社の製品中、第一位なる評あるはホワイトロースなり。本品は即是

三越吳服店洋服部調製の洋服(其特色は如何)

▲三越調製洋服の特色は?
(一)其柄合の嶄新なると
(二)其召工合の宜しきと
(三)其代價の低廉なると
に在り。其理由はいかに?

▲御客樣の便宜を圖るに出づるは勿論!
(一)洋服地を英國より直接輸入すると
(二)倫敦より招聘の裁方の從事すると
(三)非常なる大々的勉强を以てすると
に由る。試に一着を御新調遊ばしませ!

三越吳服府の發賣品は何れも品質の精良にして代價の低廉なるに限り申候。こゝに時節柄必要なるもの數種を御紹介申上候間。澤山御注文被成下樣奉懇願候。敬具

八月五日　三越吳服店専務取締役

東京日本橋　三越吳服店
振替貯金口座番號三〇〇番

最新流行の雜貨

◉髯保全器　一個　三十五錢
獨逸製にて Mars Binde と稱するものなり。之を用ゐ給はゞ、髯の容を損する事なし。宜なりカイゼル髯全盛の獨逸に於て大流行を極め居る事也。

◉香水エッセンス　一瓶四十五錢より八十錢迄
これは香水の精なり、純粹なる香水なれば、この一滴を手巾に滴らせば優に一週間は其馥郁たる香氣は失する事なし。普通の香水は精とアルコールとを和したるものなり。定價は香氣の種類に由り異れり。

◉櫛掃除器　一個廿五錢
これは婦人用櫛を掃除する者にして、其工合頗る宜。

◉ジャックボール　一個卅錢(特製卅八錢)
これは室內遊戲の玩具ともなれども、室內體育上に必要なる用品として需要中々に多し。

◉一森式坐椅子　一脚(甲)六圓五十錢(乙)七圓五十錢
これは疊込み得べき坐椅子にして、之に倚るも、之を延ばして安樂椅子の如く安樂に仰き伏すも自在なり。使用に三段の作用あり。メレンス製の座布團付きあり。

最新式寫眞撮影

手札形四枚一組一圓●キャビネ形四枚一組二圓以上
特選の白金のブロマイド○白金タイプ○カーボン種々調製

最近の三越發賣品カバン類各種

◎折鞄　一個二圓より十圓位
極めて輕便なるもの、極めて美麗なるもの、極めて格安なるものなど各種。

◎手提鞄　一個二圓五十錢より十圓位
合財形と稱する衣服入、又は三角形、丸形など各種。

◎服入鞄　一個十八圓より卅圓位
所謂 Coat Case と稱する衣服を入るる鞄、半鐶形、丸形、兩鐶形など、寸法は一尺五寸以上、革質は御望次第。

◎卷鞄　一個七圓五十錢以上
茶ヅック製にて毛布、羽根蒲團などを疊み込む爲めに用ゆ。

◎旅行用トランク　一個四十五圓以上
遠路の旅行には是非共必要なるものなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

そゞろ咲

稀代の孝女

一水

武藏國入間郡川越町に山崎いち女となん呼べる婦人あり。文久二年三月を以て同町に生れ、父は新太郎と稱し、早くも明を失ひ家政を見ると能はず、母たい之に代りて家事を執れるとあり、明治六年母一女を生み、ちかと名付け手中の玉と、愛撫一層深かりしも、此時より母は精神に異狀を呈し、且つ產後乳汁全からざるも、母は他人の乳は毒なりとて、決して補乳せしめず、いち女常に米汁を造りて、兩親に事ふるの傍、之を妹に與へ、保育に力をつくせりと、時にいち女は十二歳なりき、ちかは其後年十二歳にして、かりそめの暑氣に冒され、夭折しければ、母たいは最愛の末子を失ひ、慟哭其極に達し、遂に知覺精神を失ひ、唯靈前に額づき香を燒いて稱名ずると、時に徹宵に至れりと、斯の如きと廿年の長きに亘りしため、遂に病を發して半身不隨となるに及べり、此間いち女は母に過ちあらんとを慮り、毎に尾行して陰に保護し、七年の長き夜も怠らず、或は慰め或は說いて、家に伴い寢に就かしめたり、其後いち女は夫を迎へて、夫婦ども〳〵兩親に事ふ、而るに不幸は彌が上にも重り來りて、斯る中にも力と賴む夫は、明治廿九年より病に罹り、呻吟亦何事もなす能はず、いち女單り病父母を始め、三人の看病は愚か、藥料を得べく日夜懸命に働きぬ、折柄父新太郎は病革りて、三十二年春死去し、次て病夫もみまかりぬ、後に殘りし病母と、無資無產の家を持し、いち女が心の中は、如何ありつらん、普通の女性とせば定めし氣も狂はましものを、流石孝心深きいち女は、何事も宿世の因緣とあきらめ、ひれふる山のそれならねど、岩となりたる心根は、舊に倍して懸命に打働き、佛事の間は殘りし母に奉侍すると舊の如く、母は病次第に加はりて、我意我慢の事のみ多く、搗て加えて酒、煙草は一方ならぬ好物故、時としては一升を傾け醉に乘じて、橫暴を極むる動作は見るに忍びざる處なれども、いち女は猶も倦まず屈せず、孜々として、母に對する、孝養の足らざるを滿さんとのみ願ひて、如何なる無理あるも唯一度の反抗なく、從順に奉侍するに努めたり、然れども病魔長く襲ひて、病殁の不幸一再に止まらざるがため、唯さへ豐ならざる家產は、全く蕩盡して、時に母の要求に調達の後るゝとあるか、母は怒號疾呼して止まらざれば、隣人其狂を怪むのあまり、いち女に告て曰く、母は狂者なれば其分を知らずして、過大の奉養を求むる者なれば、時には一喝して其意を遂げざらしむるに如かず、斯くして狂人如何に橫暴を振ふるも、隣人皆其狂を知りて、決して女を誹謗する者なけんと、聞いていち女は潸然泣いて答て曰く狂者なれども私が母なれば、母の欲する處之を爲す、子としての本分なり、私は父に別れ、夫に別れ、此聖代に何んの樂とてもなく、只單りの病母に奉侍するこそ無上の樂なれ、狂者たればとて、假りにも母に對し、一喝するなど云ふ、不孝のとは私の忍びざる所なりとて、切なる隣人の情も斥けて、專心に恢復を計り、或は神佛に加護を願ひ、或は良藥ありと聞けば、赤貧洗ふが如き家計の中より、苦心して調達し得たる金員により、路の遠近を問はず之を求めて進むるなど、年を重ねるも其奉養一日の如く、斯る中に又も湧き來る不幸あり、時しも明治三十四年、曾て他家へ緣付たる實妹まつ女なる者、夫茂平の商業失敗より行方不明となれり、時にまつ女は妊娠し既に臨月なりしかば、姉妹の情殊にいち女の如き天性の至孝者にありては、何條捨て置かるべき、全からぬ細き煙りの、吾家に引取りて、一飯の食を分け與へ、分娩せしめて、朝夕に勞り、辛くも母子をして恙なくあらしめたり。

如斯世にも稀なる不幸者にして、聞くだに涙の種といふも愚かなり、此至誠世に聞え、過る日其筋より綠綬褒章を下賜せられ、又吾會埼玉支部長大久保榮子氏は、王心會を代表して金五圓を寄贈して、孝烈を表彰せられたりとなん。

嗚呼稀世の烈婦いち女よ年齒漸く二六の頃より、初老に至る間、一日として不幸の日たらざるはなく、其辛酸苦鬪、眞に一家に寧日なく、母の病勢重きに從ひ、ます〳〵纎手を振ひ、常人の企て及ばざる看護に從事する等誠に世の婦人の龜鑑とすべく、實に希世の烈婦といふべきなり。

贈正四位野村望東尼自筆の歌

心の塵

會員　四屋保子

思ふと一つ叶へば、又たひとつとか、げに限なきは身の慾にこそ。田舍に在りし程の心にはうちひさす都べに一度出てなば他に行きたしとも思はざりき。かくて照る日に焦れつゝ、園の茶もつみたりき。養蠶をもしたりき。機おりたちぬひの業なども、暑しとてたゆたひしことはあらざりき。かくて都に來りてよりは、夏毎すゞしきあたりにいてたちて、心のまゝに遊びくらすをたのしきとと思ひなりしは身のほど知らぬ慾にてありき。故郷の妹はもとの我身の仕事うけつぎて、冬の寒さも、夏のあつさも苦しとはいはて、つとめつゝあるならん。はた母上のたゞ一度ゆかまほしとおぼしたまへる、別府の溫泉あみにだに、いまだえ出しまゐらせぬを、いかでおのれのみ年毎遊びにはいでたゝれん。ことしの夏はやみぬべしと思ひ定むれば、又さる方に心安く朝夕の暇々には、涼しき窓にて手習やせん、書やよまんおもしろき書よ、かきよき筆よと、いひしらぬたのしみのありて、なか〳〵に松青く、波白き山邊海べの避暑よりも嬉しうてなん。

むらぎもの心の塵し拂ひなば都のうちも涼しからまし

望東尼のこと

望東尼勤王の志に厚く又歌に巧みなりしは世既に定評あり、されど風雅の中にも痛く時人を感動せしめし忠烈の赤誠ありしこと及其女紅の道に秀で纖縫の道精しく種々なる手藝に堪能なりしことなどは未だ之を委しうせざる人も尠からざるべし（本紙附錄參照）、因に云ふ同尼廿四歳の頃より手習の道を勵み遂に能書のほまれを得るに至りしと上の歌の文字のいかに氣高くして、うるはしきよ。

（大久保高明談）

和歌俳句短文新體詩募集

本紙は特に諸媛の爲め斯苑を奬勵し且つ諸姉の佳作を紹介するに努めつゝあるは既に諸姉の認めらるゝ處今や多趣味なる好題あるの期節に際し愈々奮て讀者の應募を奬勵せんとす諸姉よ此意を諒し陸續投せられんとを冀ふ

回數	種類	題	選者	締切期限	發表月日
三八	新體詩	夏季雜題	猬局同人	八月廿日	九月五日
五一	短文	仝	仝		
三一	俳句	秋季雜題	內藤鳴雪		
六一	歌	觀月	大口鯛二		

附記　一二三等當選者には美しき扇子其他の物品を贈呈すべし

料紙は繪葉書又は端書に限る但新體詩短文は半紙にても差支なきこと

住所姓名は必ず記載の事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講壇

女鉢の木　第二

大島光利

偖も佐野善左衛門正言は遂に辭世の一句を殘して切腹をいたし、五百石の家は斷絶いたしました。そも〳〵佐野氏の家系を大略申し上げますと先祖は佐野肥後守正勝と申し徳川家より大阪城内に千姫君の御附を命ぜられました。千姫君と申すは徳川二代將軍秀忠公の息女にて豐臣秀頼公の御簾中でございます、太閤薨去遊ばし、慶長五年石田三成關西の諸侯を糾合し徳川家を僵さんと、先づ山城國伏見の城に攻め寄せる、此時楯籠る人々には鳥居彥衛門元忠・内藤彌次右衛門・松平主殿頭等小勢を以て勇しく籠城いたす、十重廿重に取圍む石田方の大軍を物の數ともせずに戰ひましたが、之を聞て佐野肥後守腕を擦り齒を嚙みて石田の奸詐惡むべしと大に怒り、遂に伏見に入城いたし、櫓の狹間に大砲二門を備へあつたる此射方を司りました。然るに城は日々に大軍の爲になやまされ落去旦夕に迫る、鳥居彥右衛門元忠、阿修羅王の暴れたるが如く城門排ひて討て出て僅の間は大軍と戰ひ目ざましくも敵を脳ましたるが、勢ハ加し城内に引揚る、其時敵方より才賀孫市と云へる者、槍を小脇に抱込て渦卷煙の裡を潜つて乘込み、鳥居に迫りますと、鳥居はさわがず、我は元忠なり、首を取つて功名せよと申すと、才賀は恐入り、城將の御手として物の數ならぬ私如きの及ぶ處に非ず、疾く御腹めされよとて、瞬に自害を待つて其首を貰ひ受けました。此時に櫓に當つて物凄き音の聞えると共に渦まく煙は濛々として物凄し、是後に思ひ合すれば佐野肥後守の最期でありました。敵を目がけて射下す大砲は第一大萬大吉の紋處を付たる大旗を狙ひ是ぞ敵の大將佐和山の侍從石田三成に疑ひなしと、大砲の筒口を拭取の暇なく烈しく射出したる爲、肥後守の身體は何地行けん大砲破裂と共に其影を留めず、唯之を知りしは才賀孫市あるのみ、味方は殘らず討死にいたしたので更に知るものなし、一度は場所紛失と云へる事になりたるが、才賀孫市の證言に依つて、肥後守の惣領五郎弟傳右衛門の兩人御召出しになり兄の家は千石賜り弟の家は五百石にて番町袋町厩谷の住居が即ち佐野善左衛門の家でございまする、父傳右衛門實久と秋子とは悲歎の涙乾く間もなく、香ゆかしき橘の、花も實もある家系なるに、悲しや兄の最期と共に家斷絶從間しや麻布谷町の近傍にさゝやかなる白屋を借受、小石川指ゲ谷町の雇人口入宿を尋ね、水戸家へ出入を求めんと心を碎きし甲斐あつて、本鄕春日町の森田屋と云へるは水戸家へ出入の口入宿と聞き大に悦び之にまゐつて飽までも田舍者と見せ、幸ひ身體は肥滿し、重疊殆んど十八貫に達し、色黒き事は南蠻鐵の如く、未だ種痘の設備なき頃とて天然痘の痕物凄く、髮の毛は赤くして癖多く、兩眼愛嬌あれども目尻下り口元は尋常但し齒並は亂杭齒と唱へる、之を後に水戸中納言齊保公が汝は容姿美しきものぞと御賞になりしを思ひ合すれば、人は美目より只心と申しまする比喩に合て居りまする。嘗て加賀の千代が前田公に御目通りをなせし時彼の肥滿せし姿を見て笑はれたるに千代は莞爾と笑を含み

一と抱へあれど柳は柳かな

と排句を以つて答へたさうでございますが、其と能く似て居りまする。秋女は右の奉公人口入にまゐり腰を屈め所に通入ますと口入の老婆と主人は顏を見合せて思はず哄笑たるは秋の風采の醜怪に由てなり秋「ハア御免下せへまし、私はハア東上總の物でがんすが、禮儀作法見習ひの御奉公いたしたいと思つて參りやした、自家はハア大百姓でがすから別に給金なぞに望みは無てがす、菩提所の方丈樣の云はつしやるに立倚ば大樹の下だ、犬になるとも大家の犬が宜かッペエ、と云ふ事でがすから、徳川御三家の水戸樣の御重役樣の邸なら給金も何も要ねへてがすから、何卒ハア周旋アして下ださいましヨ、若し先方から給金の下だすつたら殘らず御前樣にハア御世話料に進ぜやすヨと云へば、夫婦はホク〳〵打悦び、然うですかへ、マア御上んなさいヨ、お前さん御幾年だへ秋「未だ二十三でがんすヨ○ウンお前さん江戸までわざ〳〵奉公に來なさるには何か藝でも出來ますか

秋「自慢をするやうでがすが俗諺が巧妙でがんして私らの村で聲の善のが評判でがすヨ○甚麽俗諺を御諳ひなさるね秋「夫はハア上總甚句と云ふて、恁ふ云ふ文句でがす惚て通へば加納山の山も左程高ひとも思やせぬ……夫婦は思はず知らず其處へ腹を抱へて笑ひ仆れる○マア巧妙な事ね其他に何か藝があるか秋「ハア朝暗い裡に起て身體の續くだけ働が癖て力が剛ひから男どもと角力を取つても負た事は無へてがす、夫から隱藝としては鯱鉾立に壁立てがすヨ、夫婦は肝を潰して○何だへ鯱鉾立に壁立かへ、私達も永年此家業をして居るがお前のやうな變つた女中の口入をなすのは今日が始てだヨ、女は女らしくと云ふから將軍樣の御膝元の江戸では成たけ柔しくしなければなりませんヨ、お前も今は嫁入り盛だ、之を過してしまうと生涯後家て暮さねばなりませんヨ○何ね、鬼も十八、番茶も出花てね、十七八の時には鎮守樣の祭など村の若者が袖を曳たりするが、貞女兩夫に見えずと云つて身體を任した以上は生涯連添ねばならねへから、妾が眼識に適つた亭主に有べエと云ふ人が見當らねへから、奴郞め狎戯た事をするなと云つちやア撲き打した目を廻したる者もあるてんかんすと口から出まかせ表面は田舍者に見せて居るが胸中には人知れね涙を流し、兄善左衛門の志を受繼ぎ天下の大事を爲すには此位の苦痛は何の物かはと彌々田舍者の口氣にて喋り居と、恰も宜や水戸樣の邸にて並ぶ方なき御權勢徳川家よりの御附家老中山備前守樣の御家來が一人、無雜作に暖簾の間から打覗きたるに、森田屋夫婦は兩手を控へ叮事に頭を下げる○イヤ何の勝手働き御飯焚が一人入用、鏡を見たり尻を撫たりする奴ては困る、田舍者のボッと出て若侍なぞが見ても冗談一口も云はず身顔するやうな女中が一人、慾ひと云ふのだが、什麼だナ然う云ふ奉公人は見當らぬか、夫婦は之を聞と思はず頭を擧げ○旦那恰當善のがムいます、江戸中の口入宿を探しても然う云ふ女は滅多にムいません、私ども夫婦は十三年間此渡世をして居ますが、モー一目見より正直律義か猫冠りかと云ふ事を見違へた事はムいません、茲に居ります此女は如何です、他に類と眞似人のない代物て、重量が十八貫二百目、足袋が十一文甲高を穿と云ふのて遊藝としては、上總甚句隱し藝は鯱鉾立に壁立。㊙然し働く事は保險附ですと云へば彼の侍はお秋の顏をヂット凝視て○之は宜からう、兎に角立歸つて伺つて見から、恁ふ云ふ代物は他に類がないから餘所に違らぬやうにしてくれ○畏りました、何卒宜しく願ひます、之て朝早く起て働のが何よりの好だと申します、田舍者は不品行だと申しますが中々感心な處がムいます、十八九の頃から若衆なぞに袖褄を曳れても貞女兩夫に見えずして、生涯連添ふ夫より他には肌は許さないなぞと身の上話を致しましたが、中々見上た者てムいます、云へば使は悦んて立歸る、黄昏少し前に再び參りまして、お秋を召抱へると云ふ事にて、身元引受が森田屋、證文等も出來まして彌々中山家へ奉公する事になりました、勿論同家より下だされる給金は森田屋の所得に歸す、森田屋の主人はお秋に向ひ奉公の爲やう心得等一切申し聞ける、腹の内にては爲てやつたりと悦び、人目を忍んで手を合せ、兄善左衛門正言の恨みの一念茲に留り、中山樣に宮仕ひを導き給ふか嬉しやと南無阿彌陀佛も口の中、千萬部の經陀羅尼を名僧智識が讀誦するより、天下泰平惡人滅亡を主君へ願ふが何よりの御回向、修羅の街に迷はせ玉ふ、兄上樣の亡魂よ必ず待たせ給へかしと、其日より中山家へ下女奉公に住込みましたが、遂に中納言齊保公の上聞に逢しお秋を御召出しに相成ると云ふ女鉢の木と題せし講談は次號に、

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

奥村五百子女史を懷ふ

近瀬貞子

おもふとちよりつとひても　なき人のうへにおよはぬ　ときなかりけり

靜岡　木俣六女

ひとかけの衿にもいとゞ偲はるゝ　いまはかたみのあつきみさとし

岡山　横山はる子

おくつきにのとけく君はねむるらん　立てにしわさのさかへぬる今日

青森　大橋信子

月に日に咲きまさりぬる花見ても　きみがいさをのしのはるゝ哉

人は知らずわれはなつけん君はしもみめくみ深きなさけの神と　岡山　横川はる子

立てましいさほは君にとゞまらずわか日の本のほまれなりけり　同　人

文机にまつれる君かうつしゑに折りてさゝげん姫ゆりの花　福岡　松村鶴賀子

やすらかにねむりませますらんくれなゐの心のはなを代々にのこして　大坂　金田つるえ

あはれなる戰のにわをもし君の涙はながく世になかれけり　同　人

世に立てしいさを思へばいかなる時も軍の跡にそありける　同　人

ものゝふにおとらぬ君がま心の花は散りても名そかくはしき　兵庫　頭井照子

月に日に榮ゆるまとゐ見るにつけきみいまさはと思ひけるかな　三重　諸戸つれ

人みなの捧げまつらん言の葉を君も嬉しと見そなはすらん　青森　大橋信子

敷島のやまと女の名をあげし君こそ千代の鑑なりけれ　青森　大橋八佐子

現身はあらすなりてもくちせぬは櫻井にのこる名にこそありけれ　京都　佐々木しげ子

世の爲に盡せし後は苔の下に心やすくねむりますらん　兵庫　乾榮子

君まさは嬉しからまし盛りなるけふのまとゐを見るにつけても　靜岡　石川類子

人みなのなしむをよそに山の端に入りにし月の影ぞこひしき　愛知　山内經子

國のため赤き心をつくしけりからつの里の大和なでしこ　三重　戸澤みし

なき君のうつし見てもおもふかな國につくしゝそのまごゝろを　靜岡　彦坂清子

ものゝふとみ國の爲にをの子にもまさるいさほを立てし君かな　岡山　横川はる子

さくら花ちりはてぬれどかくはしき君がいさをはよゝにつきせじ　愛知　山田靜子

今日はあれど明日はあらじと西東走りし君も今日はなき哉　三重　西山ひさゑ

國を愛て惜しまさる身も今更に逝きにし君のあとぞこひしき　青森　津島多滿

香はしき名のみのこしてかなしくも散りにし花の忍はるゝ哉　青森　田島正子

なきたまよ君のいさをは千代かけてやしまはおろか外國まても　京都　山木千代子

世につくす君のいさをは天地のうごかぬ限り消じとそ思ふ　青森　大橋信子

いろも香もなきしこ草も君か爲めさゝげまつらん言の葉の花　青森　大橋八佐子

皆人の心あはせてあふぐ哉國に盡しゝ君がいさをは　京都　佐々木しげ子

國を愛づるそのまごゝろは男の子にもまさりし君のてし戀しさ　群馬　木暮千代子

ひとすじに國を思へる心もていさをも立し君かな　兵庫　乾榮子

くみたてし君がいさをは花さきてつきせぬ御代のかゞみなりけり　岡山　藤波音子

みまかりし君がみたまは今もなほ目にこそ見えぬ國まもるらめ　愛知　横井初子

（以下次號）

俳句　七夕

内藤鳴雪大人選

天　七夕やもたれなれたる古机　長崎　末續數子

地　七夕や燈火白き雨の寺　東京　中山正子

人　羅衣や柳をむすぶ舟の人　東京　加藤との子

○

谷川に硯をあらふ法師哉　長崎　末續數子

帷子や薩摩隼人の力瘤　東京　中山正子

七夕や今宵まいらす玉手箱　東京　中山由子

千年のうす衣落ちぬ鳥立ちて　岡山　四村長子

七夕や城の燈火更けにけり　同　人

朝風に羅衣すべる衣桁かな　四谷　秋元小菊

羅衣の袖に恥かしうたの反古　同　人

うすものゝたもと吹かせて橋の上　東京　中限富士子

七夕の露かなしきよ朝あらし　兵庫　宇野たま子

七夕の竹に紳風明けやすき　北海道　菅原よし子

七夕にむつかしげなる詩へかな

栃木　井上やい子

罷や細身の太刀のふさわしき　茨城　清宮環子

星迎へ瓜盗人もあろ夜かな　三重　四山數子

七夕のなみだなるらん笹の露　東京　乾榮子

見ろが中に朝がほ咲きし小垣かな　靜岡　市川はな

羅を着こなし振のくすし哉　三重　西山數子

星まつりつれなき月のはいりけり　京都　山木松

七夕や星ともならん我れがひ　青森　吉田安子

貴夫人のすゞみのそてやみすの内　靜岡　石川類子

古體に星祭りする色紙かな　三重　南部種子

かぢの葉の露に七夕更けにけり　東京　蔣々木榮子

帷子にさむき嵐や瀧のもと　東京　乾榮子

帷子や乳大いなる女かな　靜岡　市川はな

たもと吹く松風すゞし帷子　青森　佐藤國子

七夕や軒に賑ふ笹の音　京都　渡邊豊子

羅の更けて寒しや舟あそび　東京　松田重子

七夕の歌も十月の小村かな　北海道　小野寺ちとせ子

帷子の肩のほそりやかきつばた　東京　中限富士子

朝戸出や帷子寒き田舎道　三重　莊司種子

新體詩

東明君の詩を見て（一等）

京都　松岡里代子

世の波高く荒む時
ひかたなぎさに佇めば
胸によりくるあら浪の
こゆるぎうちていつしかかと
おつる涙の吁かひもなや」
あはれ我魂などてかく
夢の迷ひを現して
愁ひの雲にさすらふか
思へばいと悲しさに
泣くよ涙の泉かれよと」
ひがたき秋寂しらの
夕べの露の筆ひちて
悶ふる心堪へやらぬ
かくてぞ思ふとこやみの
國に幸はあらなんかとよ」
靈魂に迫る苦しみの
なぐさにと見る愛國紙
たしむ新詩目にとめて
またも涙に噎ぶかな
君が悲しき詩の調べに」

あゝとばかりの息白く
しばくりかへす君がうた
哀しく誦せば煩ひに
みだるゝ心情眞清水の
獨りたぎつに似たらずや君」
あゝこの詩に限りなき
力籠りて人を魅す
君がなやみの種や何
語りませ君戀かあらじ
愛子に別れし悲みあるか

前號の追加

和歌　佐々木大人選　題　夏の旅

○秀逸

夏やすみ歸らん旅のたのしきは待ちいます母のあればなりけり　鹿兒島　河野登久子

○甲

みこの宮夏の御旅かしこさにひれふし迎ふ山陵の草　三重　西山數子

夕されば沖つしほ風眞帆に受けて夏なよそなる海原の旅　兵庫　山木榮子

海に山に暑さけんとおのがしし旅路にぎはふ夏の此頃　靜岡　吉田はつゑ

いそかるゝ旅路のあしも暑さゆゑかく樹陰にたちとまりつゝ　山口　末田竹子

まかれ路を走る車のなかりせば富士のみ雪を夏も見ましや　同　人

遠く見し瀬路のしまもちかつきて夏は船路ぞ樂しかりける　大坂　金田つるえ子

俳句　鳴雪大人選　題　暑、蟬、夏の山

まき水の忽ち乾く暑さ哉　青森　田島正子

虫ほしや昔ゆかしきよろひ櫃　同　人

夏山や折々に吐く奇しき雲　三重　四山ひさゑ

つかまへて見ればあはれや蟬の聲　東京　中限富士子

夏山の雨や晝に黄昏るゝ　東京　栗原花園

暑き日や鍛冶屋の鐵を鍛ふ音　京都　山木千代子

日を負ふて登る山路の暑さ哉　徳島　中川龍子

青空の眼にまばゆしや蟬の聲　京都　渡邊豊子

日まはりの花盛りなるあつさ哉　東京　中限富士子

石垣を蜥蜴ちよろつく暑さ哉　同　人

庵までは九十九折なり夏の山　山梨　中川うめ子

飛ぶ時に一聲高し月の蟬　徳島　中山龍子

大瀧に見ぬ戀よする暑さかな　東京　秋元小菊

ほとゝぎすも驚もないて夏の山　山形　阿部さゐ子

西行や悠々として行くの夏山　愛知　平岩なほ子

ほの見ゆる松の庭や夏の山　東京　中山由子

夏山を登りつめたる祠哉　東京　清子

庭の松枝も動かぬ暑かな　東京　中山由子

夏山こして寐やすき月夜哉　東京　秋元小菊

草の香の清く涼しや夏の山　東京　中限富士子

夏の化粧

日にやけぬ法

白粉はげを防せぐ法

◎日に焦けて黒くなりますのは餘り見好い物で有りません又誰方でも好んで黒くなさる人はないでせうがつまり血液の中に含んで居ります鉛分が其の媒介者となりますので早い例が海水浴場などでは直に黒くなります之を防ぎますのには第一に汗を出さない樣に注意しなければなりませんがなる可く多くの水分を攝らない事と外出する時には必ず柔き皮又は布で顏を摩き後に完全な化粧水（ローヤル水の如き）を塗る事です化粧水は白粉の附着を良くする爲又皮膚を美麗にし外からの毒の侵入を豫防する爲にも是非男女共必要な物ですが其の品質の良否に依つては白粉の有害と同じく非常に衛生上害が有ります殊に追々と暑くなりまして御婦人なぞは白粉がハゲたり日にヤケたりするが劇しくなりますからどうしても化粧水の必要が起りますが今の化粧水の多くは不完全な物でして昔から其のまゝの化粧下（ヘチマの）水と殆んど同じ性質の物で有りまして單に白粉下に用をなすのみで夫れ以上の効能がありません西洋と日本の化粧水の長所を折衷し之れに數多の藥種を配劑して最も進歩し且つ化粧水の模範として辱しくないのは東京銀座佐々木商店發賣のローヤル化粧水のみで其販賣店は全國至る處の化粧品賣藥洋物小間物店に有ます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

月（一等）

福島　横川千賀子

あはれいみじきものは月なりけり。浪の上にてるさやけき光り、花の上にほふおぼろ影、殊に夏の夜、木の間より涼しき光りのさしこみたる、頓に暑さも忘られて心地いひ知らずなん。さはれ月は萬古易らざるなり、唯眺むる時と人とに由りて其樣違へり。もちの夜に榮華を謳ひし人、三笠山の月に故郷偲びし人、恩賜の御衣取出てて月に腸を斷ちし人もあるならずや。げにいみじくはた、くしきは月なりけり。

評　文も亦月の如くさやけし

亡き母を思ふ（二等）

群馬　伏島たき子

或る日のこと、人氣のない裏庭て、青松葉の輪つなぎを拵へながら、あゝ、わたしは十歳になつたな。せめて、ほんとの母樣が今頃まで生きて御出てだつたら、お隣のあの子のやうに、美しい毛絲だの、ごむの毬だのも、買つて戴けやうものを、あゝ、お母樣といひさして、思はず泣伏してしまつた。すると、さつき、用たしにいらしつた、隣村の伯母樣がいつのまにか、うしろにたつて居て、「おまへはまあ何をいふのです」と、しんみりとしたおこゑて、お顏色のこはいのにも似ず、眼には一ぱい涙をためて、其後、一月程たつて、また伯母樣のお出、母樣といろいろなお話をなされたすゑ、これは、わたしが博覽會見物のおみやげに、うちの子供とお揃にかつてきましたから、この子にやつて下さいと、そばに居るわたしには、眼もくれないで母樣の前にお出しなされたのを、ちらと見れば、毛絲と毬、ほかに箱入の可愛らしいお人形さんと、美しい御本二冊とがあるやうだ。あゝ嬉しい〳〵、天にも地にもかへがたいのはこの伯母樣

評　ほんとの母樣も草葉の蔭て喜んて居らるゝて

野歌（三等）

青森　留目文子

軒端近く鳴く、コッケイコッーの聲に混さ、ベットをはなれぬ、まだ掃除には早ければ、いざ野邊を逍遙せんと、寢卷のまゝ立出ぬ、野道の側に咲ける撫子、露にぬれて可憐なり、朝顏のまがきによらず、唯一輪咲けるも、いとをかし、彼方の畔には、はや牛追ふ童、鍬を肩にせる媼、ねいさんかむりの少女、おのがじゝ田に畑に赴けり。さらば我も歸らんと、歩を廻す折しも、聞ゆる節面白き野歌、しかも嬉しげに、さえづる小鳥の聲に和して、靜かなる天地に、美妙の音樂を奏しぬ。

評　田園の朝景色思ひやられて床し

夏の海

三重　西山數子

我浦は、大洋を前に受けて居ますから、土用前後になりますと。土用浪が立ちまして、色々の魚が荒波に疲れまして海岸近く浮んてきます。此頃朝早くゆきますと籠に滿たすは、たやすいとてあります。母上が詠ぜし「荒浪につかれし鯛捕らへんとあまが子つどふ夏の朝かな」は、實景を敍したのてあります、て竹竿又は手釣にする者澤山ありまして、甚だ樂深うあります。

暑

青森　吉田安子

用事すまし歸宅してまもなく、物を尋ぬべく、彼方此方と探して居ますと、母が何かと聞きますので、去年しまひし燐は と云へば、冬の日炭火おこしに用ひ捨てしと云はれ、力なくも、微風もやと障子をあけ放てば、南の空のほんのりと、綿積上げし如き雲の峯より、烈日の石も鎔けよと輝きて、松の小枝には。暑に敗けじとなく稚見鳥が、口を開きしまゝ、光を受けし其下蔭よりは、今しも紅の焔を吐くかの樣に思はれる。

朝顏

岡山　横川明子

おきて見んと思ひし程にかれにけり。とさる人のよみ給ひしも、此程の事にやありづらん、赤きははなやかに、紫なるはゆかしく、白きは清く、とり〳〵に、朝顏の咲きみちたる、まがきのあたり、見るからに心も涼しう覺えてなん。扨も人々ははかなき花よと云ひあへれど、あはれ人の運命も、此花と異ることなきを思へば、いとゞゆかしく思はれ、眺も一きは深き心地ぞする「朝顏をなどはかなしと思ひけん人をも花はかくや見るらん」の歌げに理りにこそ。

夏旅

大口鯛二大人選

天

愛知　横井初子

朝顏の花さき出てしうれしさに
しぶ〳〵起きし目もさめにけり

評曰　四五句欸を發して欸を失はず力ありといふべし

地

岡山　西村長子

幼兒の目さむるまちてさかせんと
くもの絲まく朝顏の花

評曰　蜘蛛の糸まくをかし

人

青森　大橋のぶ子

目さましの時計もまたず起出てぬ
にはの朝顏咲き初めしより

評曰　朝顏の初花を待焦しみし情あさからず

優等

枕邊に一鉢置きし朝顏にれさめなぐさむ宿のうなゐ子　三重　莊司種

この花にまけすおくるそかしこきとをさな子さとす垣の朝顏　京都　池田とみ

あさいする人に見せばや露ながらさきてにほへる庭の朝がほ　兵庫　頭井亂子

夢びやに行く子もしばしながめけり里のかきねの朝顏のはな　青森　三上入重子

病む妹につみて見せまくおほゆれどあまりにもろき朝かほのはな　東京　中隈富士子

朝顏を見せまほしさに兄君のあさいの夢をどろかしけり　岡山　横川明子

朝顏の花のはじめて咲きたれは朝寢のあるじおこしつるかな　東京　松田重子

朝顏を小かめに植ゑてはぐゝめば昨日は二つ今日は三つさく　吳市　竹入男子

中垣をこゑてかなたにさきにけりひごとに待ちし朝がほのはな　岡山　石井俊子

甲

有明の月も宿れる朝露に匂ひて咲ける朝がほの花　山形　阿部さゐ子

中々にとくしほめはや朝顏の花なは人のもてはやすらん　靜岡　石川類子

昨日みし花よりけふはまされどもあすを思はぬ朝顏のはな　愛知　神林すみ子

あさまだきそゝろありきに賤が屋の垣の朝がほ見つる嬉しさ　神戸　乾　榮子

朝顏のつぼみかぞへてうなゐ子がはな咲くあすを待つ夕かな　愛知　山内經子

はる〳〵と種子をおこせし妹のおもかげしのぶ朝がほの花　福岡　松村壽賀子

さきいでし庭の朝顏知らぬまにつみかざしてぞ子らの遊べる　青森　大橋八佐子

あす咲かんつぼみ數へし幼子の夢のまにさく朝顏のはな　靜岡　萩原さだ子

朝まだき寢卷姿に見つる設大きく咲ける顏がほのはな　青森　留目文子

朝霧にまがきに咲ける朝顏はつゆこそ花のいのちなるならめ　靜岡　里見ゆう子

朝顏のゆふべをまたぬ命とも知らでさきけり露ながらに　愛知　横井初子

わが宿の垣根にほころ朝顏は露の命を知らずやあるらん　同　人

あさな〳〵庭の垣根の朝顏はさきかはりつゝ花ぞさきける　同　人

すなほなる竹を力に朝顏の花の三つ四つ咲くぞ嬉しき　青森　大橋のぶ子

亡き君の心盡しの朝顏を見るたびわれは袖の露けき　青森　大橋八佐子

朝いせぬうなゐが爲としめゆひし垣根に匂ふ朝顏の花　筑後　蒲池しづ子

とく起きて文學はんと窓の戸を明くれば匂ふ朝顏の花　青森　三山入重子

山里の賤が垣根に朝顏のしばしのさかり目覺ましきかな　三重　南部種子

たま〳〵に訪ひこし友をひきとめしけさうれしくも朝がほのさく　岡山　横川明子

培ひしそのかひありて朝顏の花のかず〳〵さきいでてにけり　三重　南部操子

手入せれど露にひらけてきのふ今日まがきをかざる朝顏のはな　福島　横川千賀子

夏やすみ友といてこし初たびのやどのかきねに朝顏の咲く　岡山　横川明子

來て見ませ垣根に植ゑし朝顏露をうけつゝ咲きそろひけり　青森　佐藤國子

やれはてししづが垣根にやさしくもつくろひがほに咲ける朝がほ　靜岡　石川類子

いろ〳〵に花は咲けども朝顏の露を命とたのむはかなさ　愛知　石川南江子

むつかりし稚子も笑みけり立よりてさししめしたる朝がほの花　福岡　松村壽賀子

日かげにははかなくきゆる露のみをいさましく咲く朝がほの花　廣島　竹入男子

好きの種をたまひし友に似たるかなけさ咲き初めし庭の朝顏　青森　大橋八佐子

たがひとつ種こぼしけん朝貌の花さきにけり庭のかき根に　青森　笹目正野子

なはくちてたふれんとするまがきをばよすがとしつゝさけろの朝顏　靜岡　里見ゆう子

朝がほのつぼみかぞへぬ友どちと湯あみの後に庭めぐりして　山形　阿部さゐ子

あすは又いくつ咲くかと夕べ〳〵數へてたのし朝がほのはな　三重　小島駒子

人の身もかくやと思ふつゆのまに早やうつろひぬ朝がほの花　靜岡　萩原さだ子

あまりにも咲つる花のうるはしき今朝のあさ顏おし花にせん　三重　小島駒子

手すさびに我うゑ置きし朝顏の目ざむるばかり咲きにけるかな　石川　小坂夏子

はつ花のさきぬときゝてうなゐごがねざめたのしむ朝がほの花　岡山　石井俊子

ひと花のさけるも嬉しとなりより朝がほのつる庭にのびきて　兵庫　乾　染子

夕べより蕾のかずを數へつゝあしたまたるゝ朝顏の花　兵庫　下岡松枝

年々に花美しく咲かせてん君が給ひし朝がほの花　岡山　西村長子

ひろまをも待たでうつろふ朝顏は白露よりもはかなかりけり　宮崎　坂本はま子

乙

朝夕に水をそゝきて養ひし垣の朝顏は今さかりなり

明日さかんつぼみも見ゆる朝かほの花咲つゞくかきらん　群馬　伏島たき子

中垣の籬はあれど朝顏の花は隣へ出てなきたのる

となりよりはひのぼり來て咲きそろふ朝がほの花　東京　中山正子

二葉より心つくして數々の鉢に蔦田よし子

小供等か學ひのひまにつよなげせしみつをかけつゝ見ゆるけり

友もきてゝ人まちかほに咲きいてゝのはな

さしの櫛のあかつきおきのかほの花

今朝もまたあかつきおきにおき出てゝながめつゝ

庭の朝かほかれやくまんつ

山川のながれのはなかれやくまんつ

きらかゝゆかしき朝顏

白露をかれおばくまゆかしき朝

つろかな

まち〳〵し妹とくおきよ我庭の垣の朝顏咲き

さま〳〵とうゑてめでけり朝顏は日をふるまゝ

ゆかしき〳〵なつかしき君か垣根

たつね來て見れはいよ〳〵三つ色そきはだの

媛の男が背に負ふ草に二つ三つ

花まだきおりたつ庭に露ながらさく朝顏の花

朝顏の花おとらじともろともにほこりがほなる　愛知　石川南江子

この頃の花よりもはかなくしぼむこと

露のよりも花する主を笑ふか朝顏の庭の小鉢に二つ三つ

朝ごとに軒端にさける朝がほは

しみどりこき山松が根にまつはれて

ほの花おきあまる露に色そひ朝顏も

朝と出の眺めすゝしき朝顏の

世の塵に染みし人だに朝顏の

友垣の賜りし種を蒔置けば

奇しき葉に短かき莖よ花の色

朝な夕な手鹽にかけし朝顏の

かな

朝まだき起出て見れば白露に光そひたる

おくれじとゝ起き出て見ればほこり顏なる

るあさがほ

學びやに通ふ少女ら道の邊の垣根にしぼむ朝顏

花扇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

▲林外相の協約談（馬關）林外相去廿九日朝馬關に入る今夜一泊明日春日丸にて發横濱上陸の答大岡育造氏も同行す、外相語りて曰く、我輩が京城に居る間外に早く出來た杯挨拶を受るが世は樣々である△新協約は一回の會見にて調印となりたるが固より其前に內協議は遂げられたるにて韓國大臣側には多少の異議もありしかど李總理宋大臣始め何れも大勢を察し圓滿の結末を見たり△新協約により官吏に日本人を任用するの項は固より又文武官一切を言ふ者にて中央地方を問はず一切統監の指揮を受け日本人の任用を爲し得べく重要の關係なるを知るべし△行政司法を區分し根本的に政治上の基礎を定むるは軍事上の件と共に將來の關係頗大にして日本法官を要するも多かるべし△新協約に對する諸外國の反響は我輩も新聞の報道を見たる位なるが人各意見あれば何とも言ひ難けれども別段變つたとも聞かぬ△韓國內には新協約の公布未だ十分行き渡らず國民一般意義を知らぬ位にて今日までは處々不穩の報を聞けるも未だ格別の事も聞かざりし或は此儘に經過するやも知るべからず、暴徒等が各地無賴を通じ居る事も韓國の事なれば大抵推知さるべし△先帝遜宮期日は知るべからざるも既に新皇帝とは別居され新皇帝は重明殿に在りて政務を視られ先帝との間柄離れし姿なり△余は廿七日を以て新皇帝に謁見せしも先帝には遂に謁見せず、各大臣には屢ば會見せしが孰れも誠實熱心に盡力し感服の外なし、伊藤統監は身體も壯健にて殆ど徹宵事に當り却々の元氣なり

◎孔夫子の模像　湯島の孔聖堂大成殿に安置さる孔子の像は德川時代に於て學者の最も崇敬したるものにして維新後に至りて暫く中絶したりしが近來朝野の學者教育家の發意にて盛なる祭儀が擧行せられたり斯くの如き場合なれば摸造は勿論の事容易に見ることさへ出來ざるものなりしが下谷同朋町教育院の米翁は摸型を作り諸人に配布しなば却て渴仰の念を增すの便宜ともならんと思ひ立ち此の事聖廟に及び漸く許可を得たるにより彫像家山中泰山翁に謀り摸製三千體の製造に着手し既に谷大臣佛國大使等の依賴により夫々摸造したるが固より販賣すべき物にあらざれば企望の人々にのみ實費にて配付することとしたり其の種類は粘土と銅其の他の金屬なるが茲に面白きは來朝中の清人孔子七十四代の孫孔繁錦氏が此像を見て圖らざりき我遠祖の像を貴國に見んとはとて大に喜び携へて歸國したりと云

▲世界無比の大汽船　目下倫敦のジョン、ブローン會社にて建造中なるルシタニヤ號は世界無比の大汽船にて長さ七百八十五呎、總噸數三萬二千五百噸、速力二十五節船室の高さ十呎半、電燈五千個、船窓千二百個あり而して其三等の待遇は數年前の一等に等しき由なるが目下工事は極めて秘密に進行中なりと云ふ

◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎

短文其他の當選者に告ぐ

本紙募集に係る文苑當選者中左記の諸姉住所不明のため賞品御送付致し兼居候間至急編輯局へ御通報相成度候

第百三十號發表和歌地　吉光寺敏子
仝　俳句天　鈴木榮子
仝　仝地　杉山光子
仝　仝人　鈴村ふく子
第百三十一號發表和歌人　河本久米子
第百三十二號仝天　新保みつ子

旅行家と石鹸

抑も水には硬水と云ふて石鹸の溶解せぬ水と軟水と云ふて石鹸の溶解する水との二種がある事は理學上明瞭なる譯である然るに世の中の人は此區別を明にせず石鹸さへ用ふれば足れりとして居るが是れは石鹸を無益に使うと云ふのです一時間の洗濯に二時間を費し一錢ですむものを二錢も三錢もの石鹸を減らして居るのは實に經濟上不利益な事ではありませんか所で普通一般の水は皆硬水と見做して差支へはない殊に山間の水溫泉鑛泉海の水等は其甚しきものである然るに今や鹽水石鹸と稱する實用石鹸

MARINESOAP USED IN ANYWETER

發明せられたのは經濟上空前の幸福と云はなければならない鹽水石鹸はどんな水に使うても其効能を顯し能く身體を清め頭髮衣類食器類如何なる品にても物質を損ぜずして光澤を出し而かも消毒の効力があつて僅かにして速に清淨する家庭經濟の一要品であります鹽水石鹸には化粧用と洗濯用とありますが共に黑褐色のものである鹽水石鹸は實要の重寳品で亦た進物に適します。

鹽水石鹸は化粧用と洗濯用との二種があつて化粧用一個參拾錢同小判形拾五錢同特製品壹圓五拾錢送料壹個に付き何所も五錢で同洗濯用は棒狀大小と同形打大小で直段は御照會次第速に御回答致し升製造所は府下荏原郡南品川二日市二百六十一番地平澤石鹸製造所で發賣元は東京日本橋區本町三丁目廿一番地三寳堂電話本局一二五七番振替貯金口座四三六七番である處で御購求の際に登錄商標と三寳堂の文字に御注意なさらんと飛んだ僞物を押付られる事があります

第五回博覧會褒賞受領

▲正定價引なし

營業品目
特許籠谷風呂　特許テンピ　特許水揚風呂　實用暖爐　銅釜品々

日本橋區蠣殼町二丁目十五番地　名和本支店
神田泉町通松永町十八（電浪一二七七番）

ムスク香水
（大瓶壹圓○中瓶六拾五錢○小瓶二十五錢）
○[illegible]に芳香の永く保つ點に於て[illegible]
東京日本橋區本石町四丁目
ホーナン石鹸本舖
本舖　松澤常吉
（電話本局[illegible]）

資本金八百萬圓

東京京橋區木挽町
株式會社　十五銀行
電話新橋　一五三〇番　三一九三番　三〇番

同日本橋區新乘物町
同　日本橋支店
電話浪花　一九〇一番　三二七四番　三五〇八番

一定期預金　六ヶ月以上年五分
一當座預金　日歩七厘以下
一特別當座預金　同　[illegible]

大懸賞募集！

此の才媛文集發行以來女流文學の鼓吹となり模範となり女學生は勿論令孃夫人其他の明治文學に志ある人は男女を論ぜず各一本を手にせざるなき盛況を來し弊社同人の光榮之より大なるはなし今や其第二編の第一集の發行に際し大に面目を一新し大懸賞原稿を募集し大々的發展を期せんとす希くは續々御投稿あらんことを

原稿　來九月卅日締切
賞與　天（各正金壹圓）地（各書籍券貳圓）人（各書籍券壹圓）各部一名
秀逸（女子文章作法、文集四冊[illegible]の中壹冊）各部十名
來十一月三日發刊

第二編第二集
論說、抒情文、小說、御伽話、短歌、新體詩、
叙事文　消息文　日記文　短文　今樣
（馬場孤蝶君選）（鹽井雨江君選）（島崎藤村君選）（中村勁林君選）（尾上柴舟君選）（蒲原有明君選）

各章必其種類別を明記し必明治才媛文集原稿と表記すべし今回日記は必日記體たるべし日記は專ら旅行又は歸省の途上家庭又は歸省中其地方にて得たる記事を主とす

明治才媛文集

◎女子大學教授文學士鹽井雨江先生著　女子文章作法　定價金五十錢　郵稅八錢
◎文學士大町桂月先生選評　明治第拾三才媛文集　新刊定價金廿五錢　郵稅金四錢
發行所　東京神田南乘物町十二番地　合資會社　東洋社　電話本局二七二一番　振替口座五一四一番

○銀側兩蓋之部　流行[illegible]
價八圓半　瑞西石入向爪アンクル
價十圓半　同蓋石金上向アンクル
價十三圓半　同眞三枚蓋石金上向爪
價十四圓　米國中蓋付切天貫向爪
價十七圓半　米國中蓋付上等品

○金側兩蓋之部　流行[illegible]
價三十三圓　瑞西國十八金側婦人持
價六十九圓　瑞西十八金側中形紳士持
價七十九圓　米國製十八金中形紳士持
價九十五圓　瑞西18金側形18紳士持
價百十五圓　米國製18金形18紳士持

商品案內無代進呈
東京市京橋區銀座一丁目　電話新橋（二三三一）
伊勢伊時計店

第五博覧會三等賞受領
総銅製壽德寫眞改良桶箱風呂各種出來有
銅製改良風呂釜各大小出來有
圖面定價表御入用節郵稅二錢御送被下度候
東京日本橋區通油町十九（電話浪花一四六番）
製造發賣元　銅器物問屋　南部鐵瓶販賣　石川商店
代理店　京都柳馬場　春井喜助

登錄商標

代價は……貳錢五厘より拾五錢まで
玉川は（殺菌力に富むでゐます衛生上最必要の品です
玉川は（經濟上德用で些少の粉で何枚も洗へます
玉川は（絹毛織物綿布等を洗つて地質がいたみません
玉川は（手があれさゝくれの出來る心配がありません
玉川は（石鹸こ違ひておちがよいから汚が遅ふございます
玉川は（洗ふに容易で奇麗になり手間がかゝりません
東京日本橋區本町三丁目（電本一七九四）
發賣元　合名會社　玉屋商店支店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

めりんす友仙
おぼろまもすりん
新形友物品々
東京日本橋區人形町通り
丸のまん
おぞれ店

高等女學校
認可申請中
生徒募集
一本科并ニ選科
一同
一年級各五拾名
二年級各若干名
出願期八月末日限り
校舍新築落成
麴町區中六番町六
女子文藝學校

東京勸業博覽會一二等三等賞及褒狀受領
一御琴三味線
一諸弓絃樂器
一附屬品一式
其他淸樂器八雲琴其他楽器類方の注文に應ず
東京神田鍛冶町
菊屋總本店
電話本局二四四九番

有栖川宮妃殿下賜御買上之榮
オペラ香水
大瓶壹圓八拾錢
小瓶四拾錢
東京日本橋區米澤町一ノ一
鳳舞堂

登録商標
N.P. CO.
●發賣元　東京市神田區上白壁町九番地（電話本局貳千五百五十番）
ゴム裏雪踏
●販賣所は全國重なる所の有名なる履物店にあり（近頃粗惡なる類似品あり御注意を乞ふ）
今井商店

袋井五郎君編　新版美本　正價六十錢送料六錢
四季飲料混成方
飲料の季節は來れり露の朝月の夕一盞に舌鼓打つ淸快何に譬ふべき本書は和洋さまざまの製法を至極解り易く認めたれば紳士淑女が卓上のお慰み家庭の重寶此上なし
總布製　金字入　全一冊
發行所　東京京橋區南傳馬町（電話本局一〇五五）（振替口座六九六）
有隣堂書店

內務省衛生試驗所檢査濟
ムスク香油
●原料は純良なる植物油
●芳香は「スミレ」と「ムスク」（壹瓶五拾錢）
東京本石町四丁目
ムスク香水本舖
松澤常吉

夫さだめ
伊原青々園氏著
著者か一機軸を出せる新講話にして才色兩全の佳人が半生を悲劇に送れる事實談、趣味と敎訓に富みたる家庭の最好讀みものとして廣く大方に薦む
前編價五十錢
後編價四十五錢
小包八錢
東京日本橋區　春陽堂

東京勸業博覽會
貳等賞及三等賞牌受領
貴金屬寶石袋物類
美術品袋物商
東京日本橋區人形町通り
澤田治助
電話浪花二五六九番

暑中御進物用
避暑旅行携帶
化粧道具各種
香水石鹸造花
リボンハンカチフ裝飾品
番町一六九九番
牛込神樂坂下
朝日堂
誠實廉價

眞正英國最新輸入
クイーン白粉
高等香油
クイーンオイル
本舖　東京
三井花陽堂

紳士淑女毛髮用
御料
カスガオイル
◎到る所の小間物化粧品店にあり

確實
製造大販賣　卸小賣
蚊帳夜具　夏冬ざぶとん
品質保險附●正札引なし●縱覽御隨意
諸官省御用
東京神田區表神保町
矢田商店
電話本局長二〇二八
市內無賃配達
不忍池畔雪見橋近傍
矢田出張店
市內無賃配達
商標御注意

宮內省御買上ノ光榮ヲ得タリ
共進會一等銀牌受領
パール香油
東京元賣捌尾張町

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麹町區銭瓶町（常盤橋内）

日本興業銀行

電話本局 一、二八〇〇番 三、三〇〇〇番 四一一番 （特）三七二番 一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目

一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目

合名會社 森村銀行

電話（特）本局六七三番 電話本局四九八番

定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
小口當座預金 同日歩 壹錢壹厘

東京市日本橋區小舟町三丁目

株式會社 第三銀行

電話浪花四四一番 浪花四五二番

預金利子

定期預金 六ヶ月以上 年五分
當座預金 百圓に付日歩八厘
別口當座預金 同日歩壹錢
其外全國送金、為替、手形割引、貸付其他一般の銀行業務

高等滋養飲料

夏期御進物最佳品

發賣元 日本葡萄酒株式會社

本店 越後國高田町
支店 東京神田柳原河岸廿四號地 電話浪花二一一番

大日本淑女學會編

家庭要鑑

口繪

明治時代女子風俗……岡田三郎助君畫
江戸時代女子風俗……一條成美君畫
閑院宮妃殿下最近の肖像を始め其他口繪數面

家庭要鑑目次

家政の卷
育兒の卷
裁縫の卷
手藝の卷
衞生の卷
禮法の卷
料理の卷
文藝の卷
化粧の卷
附錄 家庭（諸式）

一部でどんな事でも分る婦人の一生を通じて最も親切な相談相手。あらゆる婦人の日夕座右に備へて心の影をうつす可き鏡。定價最も至廉、縮緬の半襟一掛買ふ金にて此實典が求められる。極めて平易な談話體で總振假名づきだから讀み難い憂は無い。

定價

全壹册詳裝紙數大判壹千頁體裁優麗（定價金貳圓五十錢）五萬部限り特價金壹圓六拾錢
小包料金十錢郵劵代用壹割增のこと

發行所 東京神田南甲賀町 東京國民書院

於東京勸業博覽會

一等賞牌受領

各女學校御用

美術造花材料

附屬品並ニシホン造花器械類一式

東京市日本橋區横山町壹丁目十六番地

天野卯兵衞

電話（長）浪花一六四三番
振替貯金口座四九七〇番

●營業目錄御入用なれば此切取を添へ御申越被下度候（愛國婦人）●

……切取線……

縣　郡　町村

ラクダ印麝香石鹼は高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故一度使用せば其香氣五日間馥郁としてかをりを失はざる一大特點を有す

定價 大形廿錢 小形十錢

東京日本橋區本石町三丁目
芳香藥種問屋 本舗 井上太兵衞

牛乳ノ主成分ニテ製セル

乳白化粧水 レート

在來化粧水ハ單ニ皮膚ヲ滑カニスルモノアレドモ未ダ營養ヲ與ヘ且ツ美艶純白ニスルモノナシ獨リ乳白化粧水レートハミルクノ有効分ノミヲ精製シ濃厚ナル香氣ヲ加ヘ少量ニシテ効多ク皮膚ノ細胞作用ヲ活潑ニスルヲ以テ自然純白美艶ニシ天然ノ光澤ト色彩トヲ與フ

定價 大瓶金五拾戔 小瓶金三拾戔

東京 大阪 平尾賛平發賣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醸造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　信號瀧（キハク）又（ハク）

最上醬油　キハク印

於亞路易博覧會　名譽大賞牌受領

キハク印醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですど一か其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七四

懐中要藥

清心丹

カメリヤ洗粉　あらひこ

時代の要求により生れたるカメリヤは色白くきめを細かに艶を増し肌を滑かならしむる最新最良の洗粉なり年若き方々のみならず老年の御肌には殊に効驗著し

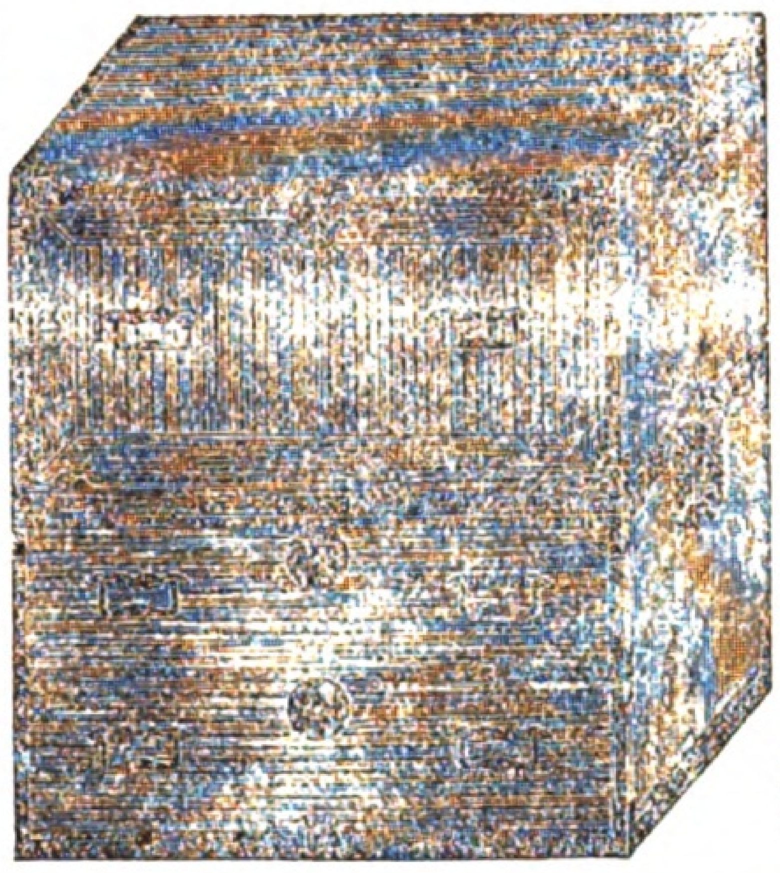
定價　大瓶廿五錢　瓶入十二錢　袋入五錢　小袋三錢

本舗ライオン齒磨發賣元　東京神田柳原川岸　小林富次郎

パスタムスク石鹸

東京博覧會機械館製造特賣中畏くも麻布両内親王殿下は召料たる光榮を賜ふ

東京勸業博覽會賞牌受領　高等簞笥長持類一式



蟲害豫防實施法（御報商品目錄送呈）

商標　長島屋　東京市日本橋區小傳馬町一　長谷川簞笥店　電話浪花一四三五番

會員募集　みやび會

本會は婦人の趣味を高尚ならしめむため和歌と文章とを通信教授するを目的とす去明治卅五年以來本會々員にして宮中御歌會始に當選の榮を擔ひし者既に五名に及びたり以て本會教授の效果著きを知るべし

大日本女學會内　東京市麴町區下二番町卅七　みやび會　電話番町一三三〇

醫院案内

婦人科産科　榊病院　麴町區三番町三三（電話番町三九五）

院長　醫學博士　榊順次郎　婦人科産科　毎日午前診察
副　醫學士　久保徳太郎　婦人科外科　外國留學中
副　醫學士　田代謹二　婦人生殖器病及泌尿器病　内科一般　火木土午後診察

●施診火木土自午後一時至二時

内科一般　午前宅診　午後往診　板垣亭　東京神田美土代町三丁目十九番地　電話本局貳千九百七十番

産科婦人科専門　診察毎日午前　入院隨時　岩田病院　淺草區左衛門河岸　電話下谷一〇二八

○院長　ドクトル　木村順吉　婦人科産科　木村病院　京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）

◉婦人病専門　院長　櫻井克己　櫻井醫院　芝明舟町十九虎門外宮様前　電話新橋三三二四

◉水原産科婦人病院　○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設あり

産科婦人科専門　ドクトル　樋口繁次　歸朝後於本院診療に從事す　二各科前の通診察從　東京病院　芝愛宕町　電話新二二六四　同二二六二〇

◉婦人科　◉小兒科専門　午前宅診　午後往診　女醫鷲山彌生　東京市麴町區飯田町四丁目九

梅毒科○生殖器科　午前夜間　杉田醫院　牛込横寺町廿八　郵便局上左横丁

小兒病診療　宅診午前　往診午後　醫學士　内田愼太郎　淺草區稲井町貳番地　●電話下谷七一八番

鳥山内科院　院長　醫學士　鳥山南壽次郎　午前診察　午後往診　京橋區鎗屋町十一番地　電話新橋千七百四十六番

峰内科醫院　内科病特に腦脊髓神經疾患　院長　ドクトル　メヂチーネ　峰秀世　神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）

腦病脊髓病　●午前　自宅　神田多町壹ノ八　●午後　岩佐病院　日本橋區蠣殻町　神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇、神經痛運動障害等　醫學博士　土田卯三郎

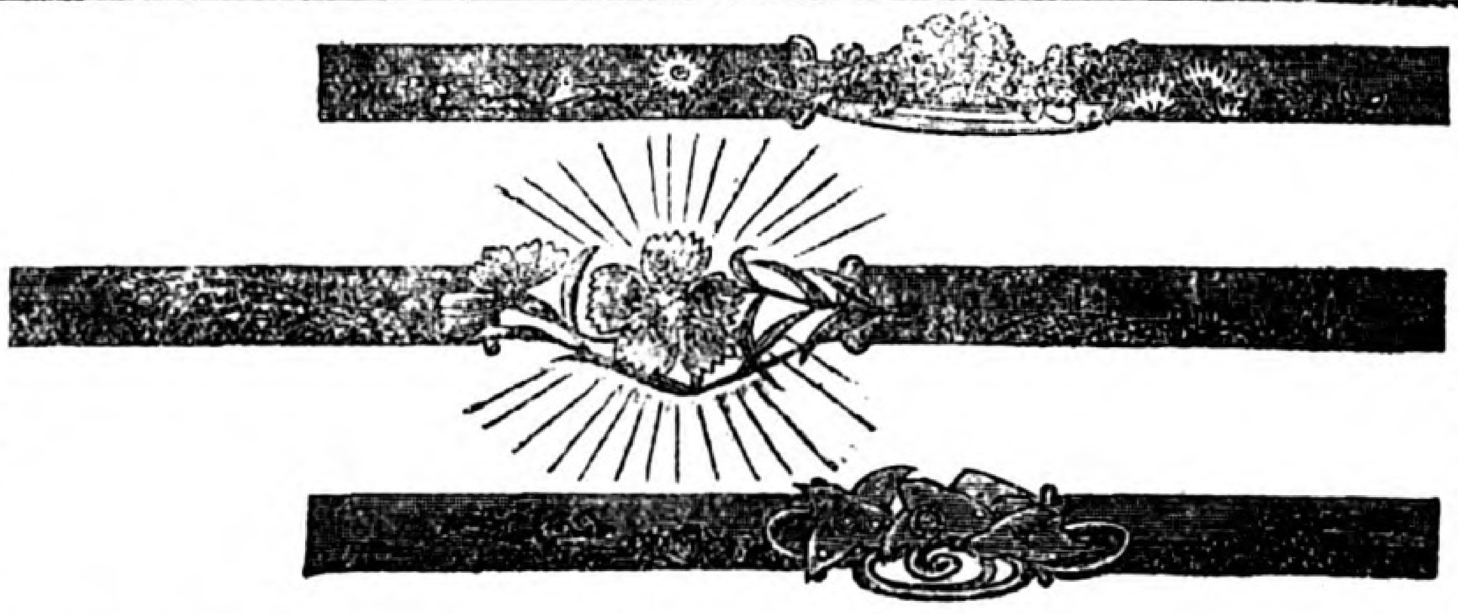
産科婦人科　入院隨時　醫學士　佐藤得齋　日本橋大傳馬鹽町拾四番地（電浪三一八三）

内山小兒科醫院　午前宅診午後往診　入院隨時　淺草區下平右衛門町十七番地　柳橋通り（電下二三六五）

岩佐病院　日本橋區蠣殻町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）
診察時間　自午前九時至正十二時
内科婦人科　院主　岩佐純
内科　院長　ドクトル　岩佐新
（獨乙留學中）副院長　醫學士　高田壽
外科　醫學士　山村正雄
産科婦人科　醫學士　西村漸
腦病脊髓病　醫學博士　土田卯三郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏用の帯留



最新流行の帯留は圖の如く花に舟浪に千鳥或ひは撫子等の淡白なる彫刻品又翡翠眞珠等の良質品へ白金及金を加へて其の配色よき紐を取合せし品夥多取揃有之候

此の他中元暑中の御贈答品として恰好たる御髪飾及び御携帯品をはじめ御避暑御旅行用の必用品も夥多本店に設備仕り候へば續々御用命の程偏に奉願上候

帯留之價
廿金製花舟彫刻　金貳拾圓
仝撫子ダイヤ入　八拾五圓
銀浪千鳥七寶入　金五圓

東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
電話新橋五五一番

暑中御進物品御案内

最上清酒
世界長清酒壜詰　一合二合四合一升
米國産干葡萄箱詰　一打以上化粧箱入 五十錢以上各種
同角砂糖箱詰　大小各種
御園の初雪（美麗箱詰 衛生菓子）廿五錢以上各種
新着レモン飴　五拾錢以上各種
其外滋養菓子　罐詰折詰各種
西洋酒類　提籠入及箱詰各種
其内外食料罐詰食器具藥味類
其他御進物適當品種々取揃へ置き申候間多數の内より御用品の程奉懇願候

東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）
發賣元　高橋　世界長商店　電話浪花一五六一番
東京勸業博覧會貳等賞牌受領

◎構造堅牢◎使用便利◎運轉圓滑◎外觀美麗
ホワイト印裁縫ミシン
輸入元　東京神田今川橋際　横濱市元濱町一丁目
古屋商店

女鑑
八月號要目
第十七年第八號　價一冊廿錢

●本號には本社主催女子教育講演會に於ける井上和田垣兩博士の講演筆記を掲ぐ

●良妻賢母說　箕作博士
●胃腸養生法　長與博士
●家庭と心理　高島平三郎
●家庭と社交　小金井喜美
●婦人の衛生　楠田謙藏
●坪井氏家庭　中川愛氷
●食育に就て　遠城兵造
●男女交際法　井上博士
●婦人精神病　呉博士
●風俗の改良　梶田半古
●結婚式改良　鳩山春子
●七日の旅行　東久世伯爵

板垣伯爵‖秋元子爵
●小說　幸田露伴
●女子と國體　南摩博士
●雜詠一束　千家男爵
●こゝろの友　阿部優子
●寫眞實驗談　井伊直方
●女子海水浴　久保醫學士
●口繪　歸省（石版色刷）▼在栖川宮兩殿下▼歌壇の貴婦人▼佐々木信綱氏家庭▼松平氏並橋本男爵令孃▼麗しき家庭▲貴族の養鷄▼名所八景

●懸賞募集
和歌（本居豐穎、佐々木信綱兩氏選）短文新體詩（鹽井文學士選）俳句（内藤鳴雪氏選）委細本誌に就て一讀あれ

東京京橋區築地二丁目　國光社　振替貯金口座番號一一七一八

袴乃親王

東京日本橋區長谷川町　御卸部　美濃磯本店　電話浪花二八五九番
本郷區本郷五丁目　小賣部　美濃磯本郷支店　電話下谷一四一五番
淺草區諏訪町　美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町　美濃磯佐内町支店
神田區小川町　美濃磯神田支店
深川高ばし際　美濃磯支店
芝區新櫻田町　小田商店
牛込區神樂町一丁目　伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目　伊澤支店

天下之美本
和田垣博士著　北澤樂天畫
新西洋美府

◎避暑旅行絶好讀物
諸君をして一切の憂一切の病を忘れしむべく和田先生が新着歐米の娯樂書中より笑話の粋を拔きて流麗の譯筆に錦を飾られ樂天先生が飄逸の繪畫の花を加へられたる上發行之が用紙に各種印刷に有りたけの贅を盡して出版上の三美具有の新書

定價壹圓　郵稅八錢（石版コロタイプ木版挿畫七十個）
發行所　東京麹町有樂町　振替三六〇　有樂社

東京勸業博覧會
壹等賞牌受領
褒賞牌受領

內外銘木床柱、天井板類、其他建築用諸材木特約販賣

東京神田區美倉町四番地（電話本局一二三二五番）
上總屋　齋藤平藏
東京神田今川橋角（電話本局一六六一番）
同支店　上米

陸海軍人及華族、醫藥學博士より賞狀を賜る

氣分を爽快ならしめ口中を潤し聲を美くす

ゼムは偉大なる効能、愛すべき美味、馥郁たる香氣を有し消化と毒けしに効ある良劑也

ゼムは氣候の變さめ風土異なる惡臭の場所に携帶し常用せば時候あたり、食傷、水傷を治し流行惡疫を豫防なす一等劑なり

ゼムは紳士、貴婦人、軍人、學生、實業家、旅行家の必携劑にして集合場、雜踏場、宴席、汽車、滊船中に於ては欠くべからざる要劑なり

ゼム二三粒を含めば精神快活口中優雅佳香を放ち人座に爽快を感ぜしむ故に衛生家は談活、喫煙、飲酒、食前食後に賞用なす貴重良劑なり

藥價　七十五粒拾錢　百六十粒貳拾錢　四百卅粒五拾錢　九百粒壹圓　新意匠容器ゼム入廿錢

日本一手發賣　東京馬喰町二丁目　愛國堂　山崎榮三郎
支舗　大阪高麗橋二丁目　山崎兄弟商會
◎全國到る處藥店化粧品店に有◎にせ物御注意を願ふ

於今回東京勸業博覧會
名譽銀牌受領
最上醬油元祖

○宮内省御用達也
○開業二百六十三年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絶す
○日本一の釀造高也

釀造元　下總銚子町　濱口合名會社
（振替貯金番號五〇二一）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洗用 ワツセル

◎此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◎用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシヤツの如きは（拾貳号）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價　◎拾貳号入　金拾五錢　六号入　金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉 ワツセル

◎此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持々晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上　金七拾五錢　五拾錢　參拾錢　拾七錢
　　　普通　金貳拾錢　六錢　三錢

東京市京橋區三十間堀三丁目電話新橋一七一二
洗肌洗ひこ芳香ワツセル製造元　英國製ワツセル日本一手販賣元
三友商會

日本第一の大勸業場

智識の源泉●●百藝の寶藏

家庭百科全書

幸福なる家庭・趣味多き家庭・理想の家庭は皆この全書より生る

近時婦人教育の普及に從ひ、女流の才學著しく進みたりと雖も日常家庭の上に施すに動もすれば實際に適せざるの憾むこと多し之畢竟理論に偏して家庭の應用に缺くる處あるに依る、本書は最も懇切なる家庭教師たるの目的を以て發刊し、現代婦人教育の缺陷を補はんと欲す

●全部五十册　△和裝頗美本各三百餘頁　△正價各四拾五錢　郵稅八錢宛

第壹編 新家庭訓

三輪田高等女學校長　三輪田眞佐子女史著

口木繪版石版挿書十彩色個

本書は著者多年の心血を傾注せられたる大文字にして、能く社會の進歩と時代の風潮とに鑑みて、家庭に關する適切なる教訓を懇篤明快に縷述せるもの、幸福なる家庭、理想の家庭を作らんとする人は勿論、一家の問題に煩悶せる人は速に繙讀して光明を求めらるべし

第貳編 四季料理

宮中臣民料理専門家　大日本割烹學會々長　石井泰次郎先生著

口繪及挿畫入

要目

春の卷　勅題料理の字盡料理△春の西洋料理△豆料理△鮎料理△南瓜料理△豆腐と煉味噌△茄子料理△鷄卵料理△八景料理△紅葉盡し
夏の卷
秋の卷　栗料理△松茸料理
冬の卷　天長節料理新
附錄　年中重詰方料理十二ヶ月取合料理の習學法

續刊●●

裁縫指南　女子高等師範教授　多見佐喜子女史著

和洋菓子製法　東京治庖會講師　龜井まさ子女史著

賣捌全國各地雜誌及書籍店

東京 博文館 本町

郵便振替貯金口座二四〇番

家庭必要珍書

梅田矯菓君新著

家庭菓子製法

◎店頭にて賣る菓子は非常に第一不經濟て不潔也故に上品なる家庭は自ら菓子を製造す
◎本書は：△蒸菓子製法：△餅菓子製法：△餡物製法：△羊羹類製法：△饅頭類製法：△麪物製法：△煎詰物製法：△洋菓子製法
◎材料器具方法悉く説明し且極めて簡便にて成効疑ひなく興味比無

◎全一冊美本　五十錢
◎郵稅六錢　◎但郵券代用は一割増

常に清新の記事を滿載せる本誌は一大特色

婦人世界

八月一日發行　二卷第九號　一冊拾五錢郵稅一錢六厘五分　一冊郵稅共九錢拾

△口繪　△三條公爵令夫人△名家令嬢△新婚寫眞△秋の七くさ（花蹊）△夕涼み△其他彩色畫

◎感心な主婦　伊藤君子　佐藤敏夫
◎小兒に多き鼻咽腔病
◎面白く有益な小女欄
◎廢物利用家庭に重實な奇法
◎私は何故に常に愉快に生活しつつあるか　嘉悦孝子
◎女は如何にして男子の心を觀察すべきか　村井弦齋
◎我が娘を旅行さしかる實驗談　加納子爵夫人
◎避暑地に於て實驗したる私の生活法　井上光子
◎獨身婦人の鑑跡見花蹊刀自の人物評
◎逆境より成功せし婦人の實歷
◎弦齋夫人のお料理　番茶は如何に煎じるか素麪は如何にゆでるか
◎夏期に注意すべき小兒下痢の手當　加藤博士

東京南紺屋町十二番地　電話新七四入　實業之日本社　振替貯金貳參六番

每月壹日發兌

外に年四回（二月五月八月十一月）增刊

三十八年一月創立

女子文學研究最好雜誌

●三卷第十號　八月一日發兌
一定期增刊第十一號　しら萩

每號選評
文學士沼波先生。廣津柳浪先生
巖谷小波先生。河井醉茗先生
佐々木信綱先生。山中古洞先生
其他編輯局諸氏

▲懸賞投書募集項目（每月十五日締切）
◎敍事文　◎抒情文　◎評論文　◎俳句
◎小說　◎新體詩　◎書翰文　◎和歌
◎新歌謠　◎短文　◎笑話　◎圖書
◎文藝遊戲（其他諸及諸嬌の思ひ〳〵事）

賞品
甲種　一等　拾圓　二等　五圓　三等　三圓
　　　四等　五拾錢　五等　三拾錢　八拾錢
乙種　一等　五圓　二等　貳圓　三等
　　　四等　貳拾錢　五等　拾錢　五拾錢
▲詳細の事は本誌に就て御覽を願ます▼

口繪　三宅克己先生揮毫　水彩畫（石版數度密刷）　繪端書繪手本寫眞版　數葉挿入

定價　最廉無比　壹册（大判百册頁）金拾錢　郵稅壹錢
●半年分（增刊共八册）同前金八拾四錢
●壹年分（同十六册）同前金壹圓六拾錢

發行所　東京市京橋區大鋸町十一　振替口座第壹七貳九番（電話本局六百四番）
女子文壇社

▲賣捌所各地到る處にあり若し最寄に取次販賣店なくば發行所へ購讀御申込を乞ふ

樂器 十字屋 書籍

和洋樂器　平圓盤發音器

振替貯金口座七一五八

東京銀座三丁目　電話新橋一二五九

明治四十年八月五日發行（每月五日廿日二回）（定價金三錢一ヶ月六錢郵稅不要）（廣告料一行金六拾錢）發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　大久保高明　發行所　東京麹町區飯田町　愛國婦人發行所　印刷所　東京牛込區市ヶ谷加賀町　秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

○總裁殿下の台旨　總裁殿下には韓國に於ける今回の暴動に際し帝國軍隊將卒の戰死傷者ありしことを被聞召深く御心を惱せられ同國本部長鶴原絨子を慰問使として御慰問あらせらるゝに付旨本月二日岩倉會長同氏に左の如く電達せられたり

本會台旨を奉じ總裁殿下には貴地今回の事變に關し戰死負傷者ある事を聞し召され御許樣に慰問使を囑托あらせられたり宜敷御取計を乞ふ後文

又同日岩倉會長は台旨を奉じて韓國駐劄軍司令官男爵長谷川大將へ左の文書を發送せられたり

本會總裁殿下貴地今回の事變に際し帝國軍隊の戰死及負傷者ありしことを被聞召深く御痛心あらせられ茲に韓國委員本部長鶴原絨子を慰問使として差遣され候間台旨の趣可然御通達あられんことを願ふ

○長野支部總會へ御台臨　目下準備中なる長野支部總會開會に際しては總裁閑院宮妃殿下御臺臨あらせられ候ことに御內定被遊福島仁尾兩評議員は既に御隨伴の事に內定ありたり

○岩倉會長の御避暑　會長岩倉久子氏は本月二日より相州箱根へ避暑せられたり

○慈善篤志家の寄附　最近に於ける拾圓以上の寄附金者は即ち左の通り

一金五百圓　獨逸國　エミル、ヘッス氏
一金百圓　東京　麻生　篤子氏
一金五拾圓　鹿兒島　秋田　千代子

右の內「ヘッス氏」は左の意味の自書を添へ本人より直接本會へ寄贈せられたり

拜啓　拙者は伯林市獨亞銀行の手を經て金五百圓を貴會へ寄附仕度候間何卒此寄附を御承諾の上貴會の基本金內へ御加へ下され日露戰爭に於て癈兵と成られたる勇敢なる兵卒并に戰死者の遺族に御分配下され度候謹言

千九百七年六月廿七日　獨逸國デュセルドルフ市ウイルヘルムスプラー、街十番館　エミル、ヘッス

○韓國委員本部の電報　韓國委員本部の電報兄七月十九日午後韓國京城に於ける變亂に際し左の電報を發送し來れり

十九日午後當地の變亂に負傷者五十餘名を生じ戰場の有樣を呈したるを以て本會救護部貴婦人病院に至り救護慰問に盡力せり尚ほ引續き盡力すべし

右に對し會長より直に左の如く返電あり

貴地變亂に付御盡力の段感謝す尚ほ此上とも宜しく賴む

○遊說　群馬縣下に於ける遊說の狀況　同地方は七月十三日より開始富樫眞喜子女史を派し專ら豫定の如く巡回をなし至る處其地の有力者の斡旋と相俟て盛況を呈しつゝあり

○各支部の注意を求む　靜岡市內に於て近來愛國婦人會員と門札ある家々を訪れて小泉交古と書せる名刺を出し今回愛國婦人會へ寄附すべく斯く各戶を訪ひ廻る者なる旨を述べる三十歲前後の片眼はれたる婦人徘徊し暗に强迫的に如何はしき墨繪を出して押賣行く似非愛國婦人ありと同地よりの通信に見へたれば各支部に於ても深く注意せられ彼等が如き惡手段に乘せられぬやう用心ありたし

○福島支部の一事業　福島支部に於ては馬鈴薯調理教師林すゑ子女史指導の下に同法の傳習を會員中希望者六十餘名に傳習のため七月十七、十八、二十日の三日間福島公會堂に於て實習を開始せるに頗る好果を得るに至れり依て其調理法の大要及び效用の程度並に習得者の氏名を擧ぐれば左の如し

一、馬鈴薯調理法は其調理方の種類多々にして變化百種以上に上るも其中の重なる者は飯、餅、團子、菓子、味噌等に調理する者之なり

一、製法は飯なれば薯を生にて細末に截り水にて能く晒らし薯の氣を去り乾かして後原料に加へて焚く又菓子類なれば薯を煮て餡下地となし水にて之れを晒らし薯の氣を去ると前と同じく斯して後之れを原料に加へ或は燒き或は蒸して製造する者にて其原料に加ふる分量は二倍三倍若くは數倍の多きを加ふるも味は割合に變化せず最も製造の巧拙によりては其味の善惡に差異を生ずるとあるも分量の過度の如きは善惡を異らしむるとなく極めて平易に調理し得られて其味頗る珍なる者なり

一、效用は經濟を主眼として專ら米穀を減用して輸出を增加し國富を增さんとするにあり殊に米作不凶の時なぞには最も有用缺くべからざる者なり

一、習得者の氏名

小鄉まき子　山上　鉚子　湊　美江子
澤木　操子　南　久子　粒來　柳子
豐島外良子　松本とき子　內池さき子
和田久江子　靑木こう子　平岡きせ子
田村かね子　遠藤たか子　田原ゆき子
丹治もと子　出島　柳子　愛知すみ子
須子とみ子　藤井かね子

因に云ふすゑ子女史は今より十三年以前馬鈴薯をして諸種の飲食物に適應せしめんと計り其調理法を深く研究し大に發明する處ありたるにより自ら巡回教師となりて齡既に六旬に垂んとするも矍鑠たる元氣は常に壯者を凌ぎ其足跡亦宮城、岩手、秋田の三縣下に普ねく其間七年常に諸人の歡迎を請けをれりと殊に東北凶作地にありては多大なる利益を與へたる由なり

山形支部飽海郡幹事部第一回總會臨の席會長代理波多野評議員隨行日誌

野中　彌知子

七月二日　午後七時卅五分上野發列車にて來る五日山形支部內飽海郡酒田町に開かるゝ第一回總會臨場の爲め會長代理として波多野評議員出發せり司法省勤務田中政太郎氏及自分隨行す

仝月三日　午前二時五十五分福島着少憩の上同四時四十分同驛發列車にて山形に着せしは同八時卅五分支部より馬淵支部長代理として佐柳副長玄角評議員渡邊吉川兩事務員同行せり新庄に着せしは同十時卅分停車場に出迎ひの最上郡幹事部岡崎戶澤加藤幹事戶澤事務員鷲田警察署長と共に一行は豫て通知し置たる旅館柳沼支店に入る晝飯を喫し午後一時腕車を驅り清川に向ふ鷲田署長先にて道程二里の本合海(最上川の津)迄出張大に斡旋せり同津にて乘替五里餘の河岸を腕車にて清川に着せしは同五時卅分頃豫て通報し置きたる矢口旅館に投宿せり當日飽海幹事部より井關櫻井兩幹事同旅館迄出迎ひ同宿せり東田川郡視學毛呂氏來訪同宿す

仝月四日　午前七時東田川郡幹事部より四川山本兩幹事藤島より遊稲三里を遠しとせず腕車にて矢口旅館に來訪されたり關幹事と告別同七時卅分一行は七里の道程を腕車にて酒田町に向ふ飽海東田川兩郡界兩羽橋に至るや下幹事部長同顧問池田町長萩野、駒林、小山、四田、佐藤、檜山、杉浦、小野、石垣、庄司各幹事出迎あり一同下車し挨拶をなし腕車を列ね酒田町に着せしは同十一時會長代理一行は小山別邸に入る支部一行は旅館辨當屋に投宿せり晝飯後本邦有名なる富豪家本間光輝氏小山別莊に會長代理を來訪せり午後一時卅分頃より小山氏別莊の附近なる本間家別莊に至り觀覽し本文一行は下幹事部長夫妻幹事五六名同家別莊に至り本間氏の案內にて庭內を覽了りて茶菓の饗應を受け後軍人遺族授產場に至る同場監督白崎氏の懇請に因り授業中の工女百名を一室に集め一場の實業奬勵談を試み終て同町寺院內に在る則佛堂に(木乃伊)を拜し各自宿舍に歸れり夕刻に至り過日來莊內三郡視察中の馬淵顧問木村主事を從へ會長代理を小山別邸に來訪知事は支部一行の宿泊せる辨當屋に同宿せり

仝月五日　午前十時卅分酒田町高台杉の山に於て第一回總會開會當日は青天にて朝來より來會する者引も切らず昨今農家は農繁にて其繁忙なる事恰も戰場の如き時季にも拘らず會員の出席者二千餘名參觀人とも約五千人に達せり(儀式其他順序は略之)

式を了り下顧問の先導にて波多野會長代理遺族廢兵席に親しく就き懇篤に慰藉されたるに何れも感涙に咽び居れり是にて一同退場せり本支部一行を始め幹事部長同顧問幹事特別會員並に酒田町有志者各町村長百餘名共に海樓に於て晝飯を喫し午後一時卅分頃より杉の山に於て劍舞を見夫より高等女學校に於て催さるゝ女生徒の遊戲數組を觀覽し一旦歸宿せしは六時頃なり六時三十分料理店相馬屋の庭園に於て一同記念の撮影をなし了て七時より九時迄同樓上に於て講話をなせり聽衆は當日總會に參列せし各幹事各町村長百余名九時より晚餐會あり歸宿せしは十一時なり因記現在當飽海郡幹事部に約三千人の會員並に四千餘圓の基本金を得たるは是偏に同町富豪家本間光輝氏の賜物なり當幹事部初めて會員募集に取掛る時運動費として同氏率先して金百圓昨卅九年主唱者奧村女史同地へ出張の時七百圓今回總會に付百五十圓都合九百五拾圓を寄附されし公共家なり其感化にて一郡內の大小富豪何れも先を競ふて若干の寄附金をなし積り〳〵て遂に四千餘圓の多きに達す右四千餘圓の金員は幹事部永遠の基本金として本間氏の銀行に預けありと又同町に軍人遺族の授產場あり十二歲以上卅歲以下の女工百四五十名(糸拔糸懸)の實業をなし居れり是も同家より補助をなし同家選定の適當なる監督者を置き遺族の女兒をして各業務に從事せしむ同町鎭守日枝神社に參詣しけるに堅固にして且つ高壯なる山門は同家一手の建築なりと或人曰く其土地の分野を知らんと欲せば先づ神社佛閣に參詣せよと眞に然り見ること聞くこと百事美事ならざるはなく實に全國財產家の模範と云ふも過言には非らざるべし併て四千圓の金を有する幹事部は是を全國に求むるも恐らく得難かるべし是亦本會の模範幹事部なり

仝月六日　午前七時卅分莊內三郡視察中の馬淵顧問と告別本支部一行は歸途に就けり當日は暴風雨にて腕車の運轉遲々として酒田町より七里の清川に着せしは零時なりき矢口旅館店先にて酒田より拵姿の折詰辨當を喫し同旅館迄見送りの下幹事部長と告別時卅分腕車を最上川の河岸に驅り清川より五里半の本合海の津を渡り是より乘替新莊停車場に着せしは山形行列車發車前僅かに十分なりき一行は四時五十分新庄發車にて山形に着せしは六時五十五分なり停車場に出迎への岩本副長戶澤評議員を始め其他四五名と共に杉山旅館に投す八時より千歲館に於て岩本佐柳兩副長並に玄角評議員と晚餐會あり歸宿せしは十一時頃なり馬淵支部長は病氣にて出席せず

六月七日　午前七時卅三分山形發下り列車にて歸京の途に就けり佐柳玄角兩評議員吉川小倉兩事務員停車場迄佐柳岩本兩副長高木評議員は米澤迄見送れり上野に着せしは午後八時廿五分當夜上野に出迎はれしは三井佐藤(猶子)高木各評議員飯塚主任幹事(本人)寺井幹事代理等なり

群馬支部遊說日記

富樫　眞喜子

七月十三日　午前九時有田支部長、相良副長、飯田評議員、小松幹事同行前橋市に殷量の失明軍人(訓一所)へ到り慰問を兼ね教授を參觀し金貳圓と茶菓を贈りたり午後三時より女子師範學校の招聘に應じ全校生徒並に附屬小學校高三、四の兒童約二百五十餘名の爲め一場の講話をなしたり全校長山高氏初め職員一同本會役員十數名列席せられたり五時閉會全八時より前橋市男子師範學校講堂に於て本會の講話會を開催せり有田知事、相良一部長、飯田二部長、隈元四部長、吉野典獄全校長を初め本會評議員有田支部長以下二十餘名準金主事外事務員一同出席斡旋の勞を執られたり當夜は降雨甚しく爲に聽講者の困難推察するに餘りあり聽衆約七百餘名に達したりと雖も男師範學校生徒女學校生徒多數を占め一般婦人は僅に三分の一を占むるばかりにて實に遺憾なりし十時半閉會夫より職員一同打集ひ茶話會を開かれ自分も其席に列り挨拶を兼ね將來の發展上に付き本部の方針等を話し十一時半辭して宿せり [illegible]

◎電話番町　五百二十四番　二千七百四十五番

愛國婦人會本部

東京支部

愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各地方支部の狀況

◎東京支部　府知事より明治四十年度軍人遺家族並に廢兵生活扶助及幼兒保育費補助として七月廿九日付を以て金壹千圓下付せられたり因記す昨年度は金七百圓下付ありき

◎栃木支部　支部長中山笑子氏は七月六日午前一時より同會の催ふしたる演藝會の際斡旋の勞を取りし支部役員其の他重なる人々五十餘名を官邸に招待し慰勞會を催したり

◎埼玉支部　來十月十六日第一回總會を開會する筈にて其前同支部の擴張を圖らんと本會より富樫眞喜子出張し大久保同支部長と共に左の日割にて縣下樞要地に於て演說會を開く由

七月廿八日大里郡熊谷町、同月廿九日北埼玉郡加須町、同月三十日北葛飾郡幸手町、同月三十一日南埼玉郡岩槻町、八月一日兒玉郡本庄町、同月二日秩父郡大宮町、同月四日比企郡松山町、同月五日入間郡川越町

◎長野支部　更級郡幹事部長川上芳子は委員武內眞子笑稀事務員同行會員增募の件に付左記日割を以て各町村へ七月十五日より出張せり又所在地篠ノ井は本月初旬より同部事務員林きん子會員募集中の處頗る好成蹟なりと尙今回同部の募集人員豫定は一千名以上なりと云へり

村上村	七月十五日午前	力石村	七月十五日午後
上山田村	七月十六日午前	更級村	七月十七日午前
八幡村	七月十七日午後	桑原村	七月十八日午前
稻荷山町	七月十八日午後		
塩崎村 川柳村 信田村 大岡村 信級村 日原村 牧郷村 更府村 信里村	日割未定		
共和村	七月廿四日午後	布施村	七月廿四日午前
御厨村	七月廿三日午後	中津村	七月廿三日午前
今里村	七月廿二日午後	笹井村	七月廿二日午後
稻里村	七月廿一日午後	青木島村	七月廿一日午前
眞島村	七月二十日午後	小島田村	七月二十日午前
西寺尾村	七月十九日午後	東福寺村	七月十九日午前
榮村	七月廿三日午後		

◎盛岡支部　七月廿一日午後一時より杜陵館に於て支部懇親會を開催し笠井顧問は開會の辭を述へ尙ほ會務に就き有益なる演說あり夫より鳥居女史の筑紫琵琶會員の奏樂舞踏ありて頗る盛會なりしが尙ほ會員及參會の軍人遺族には紀念扇子を配布し茶菓の饗ありて午後五時頃散會せり當日の來會者は二百餘名なりしと

◎和歌山支部　七月廿一日鷺の森別院に於て戰死者遺族慰藉會を催されたり賓客たる軍人遺族の參集百五十名にして兒玉主事開會の挨拶に續て宮本大尉の挨拶あり本願寺本山軍隊布教師熊野氏外一名の法話伊瀬知事坂本聯隊區司令官の挨拶あり之にて式をわり別院及伊瀬知事夫人茨木男爵夫人より寄贈の食品を配贈し餘興として篤志家の寄附に係る諸音樂を奏せられ來賓をして十二分の滿足を與へ午後三時頃散會せり

◎石川支部　七月金谷館に於て各郡市部幹事部長會議を開き會務擴張以下左の件に就き種々審議する處ありたり

一、會員增募に關する件
二、救護調査及遺族廢兵の轉出入に關する件
三、會費及幹事部會計の整理に關する件
四、會員の門標揭出方に關する件

◎廣島支部　廣島支部會員大募集の事に付ては支部會員を五千名となさん豫定にして現在會員千九百八十餘名なるより尙二千六百餘名の募集をなさざれば豫定人員に達せざるを以て昨年一月より本年十二月までを以て大募集の期日となし居れるも來ん十一月には廣島支部發會式を擧行せん筈なるに依り夫迄に豫定の募集をなす由にて過日の賞牌傳達式場にて白坂事務官は特に此事に付希望を陳ぶる所あり而して既報の如く各役員手を分つて近日中より大募集に着手せん筈なりと云ふ

◎宮崎支部　東臼杵郡南鄕村幹事部に於ては日露戰役當時までは僅々十數名に過ぎざりしが爾來委員田原與平氏幹事大石千鶴雄子の熱誠なる盡力によりて昨年來頓に入會者を增加し目下現員百四十名に達し人口步合上郡內第一位を占むるの盛況を呈せるが尙ほ續々入會申込者ありとのこと

◎福岡支部　福岡支部六月末の調査によれば各郡市部に於て現在女子人口數百に對し會員數の最も多きは嘉穗郡の五人、八七鞍手郡の四人、七五三瀦郡の三人、七四等にして最も少きは築上郡の三人、三七なり而して醵金滯納額の最も少きは宗像郡の零、糸島郡の九圓五十錢、一人平均八厘等にして最も多きは門司市の千六百七十一圓五十錢、一人平均二圓三十四錢四厘なり總會員數三萬三千九十四人にして五月末に比し百五十三人の增加を示せり

◎臺灣支部　七月廿四日午前八時頃兒玉大將一週年紀念祭を臺北公園銅像前に執行せられたるに付支部に於ては花環を捧げ追悼の意を表せり

◎韓國委員本部　七月廿日以來漢城臺に屯して警戒中の軍隊諸氏に對し軍隊接待として本願寺境內同會庭園に休憩所を設け每日午後より役員夫人諸氏出張し茶菓等を供し接待の勞を執り居れり

△負傷者慰問　漢城病院大韓病院等に收容中の日韓人負傷者に對しては役員救護部員代る〴〵慰問し御醫員看護婦等の諸氏に對し食品團扇等を寄贈し負傷者總員に對しては慰問の爲め役員各自の裁縫せる病衣を贈ることゝなり本日午後本願寺に會合し病衣の仕立に着手する筈なり

△警官遺族慰問　今回の變亂に依り職務の爲め倒れし警察官の遺族に對しては一層の同情を表し慰問等に關し目下相談中なり

△李總理夫人訪問　暴徒の爲め李總理大臣邸は全燒したるが大臣夫人は會員にもあれば昨日兒玉、三浦、山口、峯尾、熊谷、巨智部、道家、橋本、井波等軍隊接待の爲め參集せる各役員は打揃て壽町に避難中の李完用、李允用兩夫人を訪問し同情ある慰問の辭を述べたり

△大橋主事の書信(當時在京中なりし鶴原本部長に宛)
(前略)當地愛國婦人會にては病院收容中の負傷者慰問及漢城臺に駐屯警戒中の軍隊諸氏に對する接待等最も敏速に運動なし(中略)負傷者全員(京城各病院收容の分五十余名)に對しては役員の裁縫に係る病衣を寄贈せんとて今日本願寺に一同參集縫針等に着手可相成又昨日暴徒の爲め全燒となられたる韓國總理大臣李完用夫人(會員)を慰問し役員諸氏又見舞品を呈し候に非常に御滿足せられ候由に御座候(中略)韓人間に居住せる本邦役人等の家族方は非常なる心配に有之續々居留地の知人宅へ避難し來られ中々の混雜に有之候(下略)

愛國美譚

一門の春風

利を營み富を致すを以て、畢生の目的と爲し、其手段の如何を問はざるの徒、漸く增しもて行く世の中に、最珍らしくも、公共慈善の事にのみ心を勞し手を竭せるは、足引の山形縣東田川郡常萬村なる日野氏なりけり。日野氏は歷とした素封家にて、戶主を宣夫氏といひ、尙幼年なれば、姉婿日野保氏後見を爲し、祖母直江刀自(本會幹事)家事萬端に當り。去し頃吾會の遊說員野中彌知子女史は、たま〳〵此地を過ぎ、同家に一泊せしに、夜に入りて保氏の所望に應じ、同家一族に對し一場の講話を開始せり。會する者七十餘名、悉く親族の人々と其婢僕子守等なりき、女史は熱誠を込て、本會の趣旨を諄々と說きしに、講話了るを待ちて、同氏は一同に代りて深く感激したる旨謝辭を述べ、且つ又祖母直江刀自の意を受けて、直ちに來會者たる一族は勿論下女子守に至るまで、悉く入會せしむべき協議を遂げ、其一同の會費全部を立替へて、即時に七十餘名の入會を申込み、且つ告げて曰く、愛國婦人會に入會したりとて、其會費を他人の資にて納めたるにては名々の志より出たるに非ずと、他より云はれてうらしろめたし。會費は必ず自力にて辨ぜざるべからず、就ては其方法として、名々は養蠶の時に於て、屑繭を心にかけて溜め置き、其一圓分だけ我家に持來られよ、我は之を賣りて各方の會費に充つべしと、一同之を聞いて快諾し、厚く謝して己がじゝ家に歸りたりとぞ。野中女史は記者に語りぬ。記者思ふに、由來素封家たり、名門たる者の時に、公共的事業に盡す事あるも、其多くは裏面に於て爲にする所ありて、却て世の非難を醸せる者あり。日野氏の如きは平素一族の間、圓滑にして些の野心家無き爲に、斯く揃ひもそろひて、一致の行動を執り得るなり。嗚呼啻に一家の內にだに、波風の立たずして團欒の和樂何時も春風の吹きわたれるが如きは、世にめでたき家庭なるを、一族擧りて、斯くも心の合へるは、人々の其平素の心懸け、如何にいみじきか、推しはかりていと床しき限りにこそ。

英國俚諺

○勉強は賢者を生じ惡運を滅ず
○事業に就て不平を唱ふる人は決して事業に付て熟達する事能はず

幼兒の目さむるまちてさかせんと
くもの絲まく朝顔の花

◎思潮

日韓新協約に關する重なる外國新聞の論評左の如し(外務省着電)

▲英國　英國の諸新聞は日韓協約を以て當然の結果として豫期し居たるものと見え該協約の内容に對し評論を加へたるもの殆んど皆無なり

▲米國　紐育トリユビユーンは韓國に於ける日本主權の確定を祝し論じて曰く、日本は韓國に於ける權力を把持したるを以て此權力を有効に使用するは日本の義務なり日本の行動は韓國の爲め利益にして同時に韓國と交通する各國民の利益なり、適者生存の原則は植物又は動物中に於けるが如く國家間にも行はる、韓國は明かに不適者なり故に生存する能はず、若し韓國にして日本の勢力、技能、智識の十分の一を發示するを得ば黨派、腐敗、無學の域を脫して其主權を確立するを得たりしならん、日本が韓國をして混沌時代を脫して秩序を得せしめんとするは容易の業に非す、然れども日本は其機會を利用し且自己の負擔せる責任を盡すの男氣を有するや明かなり

▲獨逸　フオシツシエ、ツアイツングは曰く、伊藤侯は短時日の間に一亡國の愚人たる資格を證明せり、何れの點より考ふるも此新協約は韓國主權の存在を排除し內外に於て實際の元首は韓帝に非ずして統監となりたり日新政に對し地方的暴動の徴候あるも最等は結局韓國、却て全く日本の主權に服從するに終結すべきや疑なし、日本にして亞細亞大陸に對して有する政治的計畫なり[illegible]するに非ずんば韓國を度外に置くること能はざるなり、何となれば韓國は亞細亞大陸に對する一方の橋梁にして滿州は他方の橋梁なればなり△ロカール、アンツアイゲルは曰く、今回日韓兩國の間に成立したる新條約は外交上に獨逸に對して何等の困難を生ぜしめたるものに非ず、京城に在る獨逸辦理公使の召喚は其當時既に韓國に於ける日本の宗主權を承認したるものなり△ケヨルニツシエ、ツアイツングは曰く、日本が韓國を合併するよりして生ずべき困難に就ては日本之れを豫見すること能はず、然れども日本は[illegible]抵抗に對する威嚴を知れり、海牙に派遣されたる密使は[illegible]米、獨、佛三國に於て多數の保護者を發見すべきことを豫想したりしならん、然れども彼等は大なる誤想の下に行動せるものと云ふべし何となれば列國の要求すべき唯一の事柄は商業上の條約權の維持にあればなり

▲露國　露國の諸新聞は概めて平靜の口調を以て論評せり

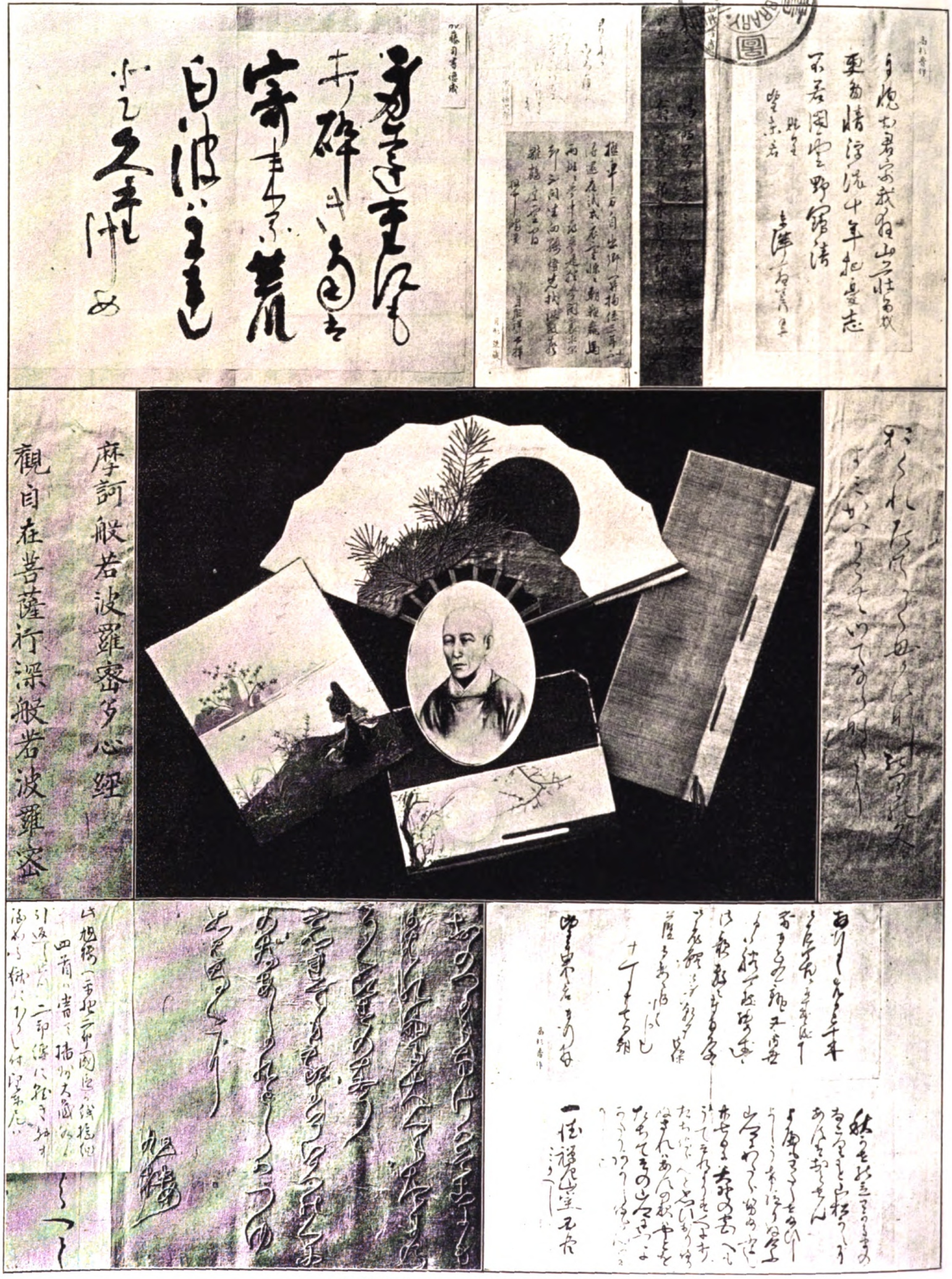
◎新刊「改良」警拔なる語調を以て本邦の現勢を大要左の如く論斷せり

(前略)本來個人主義なるものは自己に對する關係を主として發揮するものなるがゆへ、斯かる主義の行はるるところには直に個人の發達を成遂し得べし、即ち其行動著しく強勢に、且つ獨創となり從て新鋭的に活動を爲すに至り、思想雄大、識見高潤、情操も亦深遠となるを以て、新主義の發達せる社會には、勢ひ自由制度行はれ又た經濟組織を完全ならしむるにより、之れが必然の結果として各個人互に敏活勇猛なる自由競爭を爲し、延いて經濟界の隆盛に赴くを見る、亦た精神的活動例へば學問藝術等智力上の所產物の如きも多數人の力を俟ち發達するの慾あれども、これ決して然らず唯々達人によりて始めて催進せらるゝ者なり(中略)例へば有形科學を研究する人の頭腦に、幽鬼の想ひ潜在するあり、女大學を誦習するものゝ胸中自由戀愛の焔に焦がさるゝあり、女子教科に靜肅を主とする茶の湯と輕快を要とする舞蹈とあるが如し、此他實例枚擧に遑あらざるなり、混亂不統一の狀態に在る日本社會を率ひて完全なる調和を圖らざるべからず、然れども其標準及其方法に至りては至難の事に屬す、乃ちこれより紛々たる異說を研究せん。(已上大隈氏文明論に基く)

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

帝國圖書館 IMPERIAL LIBRARY

明治四十年八月五日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）



贈正四位野村望東尼の肖像遺物

本附録の中央なる老尼は維新の勤王家筑前なる野村望東尼の肖像にして扇面等細工物は同尼の手藝に係る又おくれ居ての歌と心經とは同志の士加藤司書等の追福を祈る爲め彼の姫島に於て血書せるものにして他の遺物と共に曾て本會の佐藤正氏の手を經て畏くも　皇后陛下の御覽に入りたるものなり因に本會首唱者故奥村女史は七十八歳の頃尼に面晤を得て常に景慕せられければ特に鶴原家の祕藏なるを請ひえて茲にかゝげつ

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　大久保高明　發行所　愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN